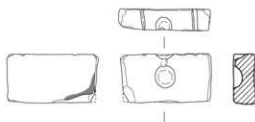


大友府内 19

中世大友府内町跡第104次調査

店舗建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書



2014

大分市教育委員会

大友府内 19

中世大友府内町跡第104次調査

店舗建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2014

大分市教育委員会

序 文

本書は、大分市教育委員会が店舗建設に伴い実施いたしました中世大友府内町跡第 104 次調査の成果を収録した埋蔵文化財発掘調査報告書です。

大友氏代々の拠点でありました「府内」は、大友義鎮（宗麟）の時代には国際貿易都市として繁栄していました。また、近年の発掘調査による数多くの遺構や多彩な遺物の発見から戦国時代の府内についても次第に明かとなってきました。

調査地点は「府内古図」によると府内のまちの南側に位置する「ノコギリ町」に該当いたします。これまでの周辺の調査では金属器製品や硯の生産などを行った中世の生業に関係する遺構や遺物が見つかっています。今回の発掘調査では、戦国時代の道路跡や柱穴列・石組遺構、また、金属器生産に使用された鋳型も発見されていることから、中世の職人が集まっていた町であったと考えられます。

本書に収録されたこれらの資料が、学術研究のみならず、広く市民の皆様に利用され文化財に対するご理解を深めて頂くための一助となり、地域史研究等にも幅広くご活用いただければ幸いと存じます。

最後になりましたが、発掘調査から報告書刊行に至るまでご理解とご協力を賜りましたコスモス薬品株式会社・大和ハウス工業株式会社様並びに関係各位に対しまして、心より感謝申し上げます。

平成 26 年 3 月 14 日

大分市教育委員会

教育長 足立 一馬

例 言

- 1 本書は大分市教育委員会が大分市六坊北町において店舗建設に伴い、平成 25 年度に調査を実施した発掘調査報告である。
- 2 調査にあたってはコスモス薬品株式会社・大和ハウス工業株式会社の全面的な協力を得て行った。
- 3 発掘調査に伴う掘削・埋戻作業、調査記録作成、遺物整理、報告書作成は大分市教育委員会（監督員 長 直信・堀地調一）の委託を受け、株式会社九州文化財総合研究所（業務責任者 服部真和）が実施した。
- 4 発掘調査は平成 25 年 10 月 28 日から平成 25 年 12 月 14 日の期間で実施し、資料整理及び報告書の作成は調査終了後から平成 26 年 3 月 14 日の期間で行った。
- 5 遺構の実測及び写真撮影は、株式会社九州文化財総合研究所が行った。
- 6 航空写真撮影は東亜航空技術株式会社がいった。
- 7 遺物の実測・拓本・製図作業・写真撮影は株式会社九州文化財総合研究所が行った。
- 8 本書の執筆は、以下のとおりである。
第 1 章・第 4 章（長 直信） 第 2 章・第 3 章（服部真和）
- 9 本書の編集は、大分市教育委員会の企画に基づき、編集作業を株式会社九州文化財総合研究所（業務責任者 服部真和）が行った。
- 10 出土遺物・記録資料は、大分市埋蔵文化財保存活用センター（大分市大字田原 337 番地の 5）に収蔵・保管している。
- 11 発掘調査及び報告書作成に際して、以下の方々に御指導・御助言を頂いた。
小野正敏（人間文化研究機構理事）・玉井哲雄（前国立歴史民俗博物館教授）・後藤宗俊（別府大学名誉教授）
渋谷忠章（元大分県立歴史博物館館長）

凡 例

- 1 本書で用いた遺構略号と遺構掲載順番は、以下のとおりである。
SE：井戸跡、SK：土坑、SD：溝跡、SF：道路状遺構、SX：性格不明遺構・焼土層・部分整地、SP：柱穴、柱穴列
- 2 本書に用いた方位は、すべて座標北（G.N）である。また基準点の座標地は、平面直角座標系第 2 系（旧日本測地系）による。
- 3 本書に掲載した遺構配置図の表記は、新旧関係を実線で示し、下位の遺構については点線、以下一点鎖線の順で記している。
また表記上、遺構の新旧関係が不明瞭な場合は、矢印で補足している。
- 4 遺構の規模と深度の単位はメートル（m）で、遺物の法量はセンチメートル（cm）で表記している。
- 5 本書に掲載した遺物の実測図の表記は、以下のとおりである。
・遺物断面が黒塗りのもので……………須恵器・須恵質土器・陶器
・遺物断面が灰色のもので……………瓦質土器・瓦器・瓦
・遺物平面の稜線と調整の変化点……………実線
・調整が同じでその単位が分かるもので……………長破線
・軸と付着物、黒斑等その範囲を示す必要があるもので……………一点破線
- 6 本書に用いた出土遺物の分類・年代観は以下の文献による。
太宰府市教育委員会 2000『太宰府条坊跡 X V—陶磁器分類編—』太宰府市教育委員会
小野正敏 1982「15、16 世紀の染付碗、皿の分類とその年代」『貿易陶磁研究』No.2
上田秀夫 1982「14～16 世紀の青磁碗の分類」『貿易陶磁研究』No.2
森田 勉 1982「14～16 世紀の白磁の型式分類と編年」『貿易陶磁研究』No.2
九州近世陶磁学会編 2000『九州陶磁の編年』九州近世陶磁学会
乗岡 実 2005『備前』『全国シンポジウム 中世窯業の諸相—生産技術の展開と編年 資料集』
吉田 寛 2003「中世大友府内町跡出土の産地不明焼締陶器について」『貿易陶磁研究』No.23
中世土器研究会編 1995『概説 中世の土器・陶磁器』真陽社
永井久美子 1996『日本出土陶磁器』兵庫埋蔵文化調査会
河野史郎 2002「出土土器器環・皿類及び瓦質土器雑器の分類と編年」『大友府内 4』大分市教育委員会
長 直信 2012「大友氏館跡出土土器の編年の検討」『大分市市内遺跡確認調査概報—2010・2011 年度—』大分市教育委員会

目 次

第Ⅰ章 はじめに	1
第1節 調査経過	1
第2節 調査組織	1
第Ⅱ章 遺跡の立地と環境	2
第1節 地理的環境	2
第2節 歴史的環境	2
第Ⅲ章 調査の成果	5
第1節 調査の概要	5
第2節 基本層序	6
第3節 主要遺構	9
第4節 出土遺物の概要	22
第Ⅳ章 総括	38
第1節 町104次調査における主要遺構の分布	38
第2節 周辺調査全体からみた遺構配置	39
第3節 まとめと課題	39

図版目次

第1図 周辺遺跡位置図(1/40,000)	2	第20図 SX094・2Tr 遺構実測図(1/40)	21
第2図 調査地点位置図(1/6,000)	3	第21図 SK009・SK024・SK037・SK040・SK045・SK046・SK080・SX060・SX044・SX050	
第3図 調査地点位置図(1/1,000)	5	出土遺物実測図(1/2・1/4)	23
第4図 土層模式図	6	第22図 SX051・SX055 出土遺物実測図(1/4・1/8)	24
第5図 遺構配置図(1/200)	7・8	第23図 SX070・SX030・SP028・SP054・その他の第1面遺構・3Tr・4Tr・6Tr・7Tr・8Tr	
第6図 SK009 遺構実測図(1/40)	9	出土遺物実測図(1/2・1/4・1/6)	25
第7図 SK024 遺構実測図(1/40)	10	第24図 9Tr・11Tr・17Tr・19Tr・SE095・SK071・SK085・SK086・SK087・SD092・SX094・SP088 出土遺物実測図(1/1・1/4)	26
第8図 SK037 遺構実測図(1/40)	10	1区検出時出土遺物実測図(1/1・1/2・1/4)	27
第9図 SK040 遺構実測図(1/40)	11	第25図 3区検出時・4区検出時・1区表土・2区表土・3区表土出土遺物実測図(1/1・1/3・1/4)	28
第10図 SK045 遺構実測図(1/40)	12	第26図 町104次調査主要遺構分布図(1/500)	38
第11図 SF100・SD092 遺構実測図(1/40)	13	町104次及び周辺調査区出土の手工業生産関連遺物(1/4)	39
第12図 SX044 遺構実測図(1/40)	14	第27図 ノコギリ町周辺遺構配置模式図(案)	
第13図 SX050・SX051・SX055 遺構実測図(1/40)	15	第28図 <16世紀後葉から末頃>(1/1,000)	40
第14図 SX070 遺構実測図(1/40)	16	第29図	
第15図 SP028 遺構実測図(1/40)	17		
第16図 SE095 遺構実測図(1/40)	18		
第17図 SK071 遺構実測図(1/40)	19		
第18図 SK085・SK086・SK087 遺構実測図(1/40)	19		
第19図 SF100・SD090 遺構実測図(1/40)	20		

目 次

表 1 遺構出土遺物一覧表①	29	表 8 陶磁器・土器類観察表⑤	36
表 2 遺構出土遺物一覧表②	30	表 9 陶磁器・土器類観察表⑥	37
表 3 遺構出土遺物一覧表③	31	表 10 瓦観察表	37
表 4 陶磁器・土器類観察表①	32	表 11 石製品観察表	37
表 5 陶磁器・土器類観察表②	33	表 12 鉄製品観察表	37
表 6 陶磁器・土器類観察表③	34	表 13 銅・鉛・ガラス製品観察表	37
表 7 陶磁器・土器類観察表④	35	表 14 銅銭観察表	37

写真図版目次

写真図版 1

調査区遠景(南東より)
調査区全景(上が北)

写真図版 2

SF100(南東より)
SX044・SX055 周辺(上が北)

写真図版 3

1 区東側検出状況(南より)
1 区北側検出状況(西より)
3 区西側検出状況(西より)
3 区東側検出状況(東より)
4 区検出状況(東より)
SK009 土層断面(北より)
SK037 完掘状況(東より)
SK040 完掘状況(西より)

写真図版 4

SK080 検出状況(南より)
SF100 検出状況(南東より)
SX044 検出状況(南西より)
SX044 完掘状況(南西より)
SX044 検出状況(南より)
SX044 完掘状況(西より)
SX044 土層断面(東より)
SX050・SX051 完掘状況(南より)

写真図版 5

SX051 馬下顎骨出土状況(南西より)
SX055 検出状況(南より)
SX098 検出状況(南より)
SP028 土層断面(西より)
SP054 出土状況(北より)
SE097・SX098・SK101 検出状況(北東より)
SK099 検出状況(東より)
SE095 土層断面(東より)

写真図版 6

SK071 完掘状況(東より)
SD090 完掘状況(東より)
SD090 土層断面(北西より)
SD092 完掘状況(東より)
SF100・SD092 土層断面(南東より)
SX094 土層断面(北より)
1 区調査風景(東より)
SX044 周辺調査風景(南より)

写真図版 7

第 21 図-17・第 21 図-18・第 21 図-19・第 21 図-20
第 21 図-53・第 23 図-15・第 23 図-23・第 25 図-7
第 25 図-10・第 25 図-13・第 25 図-14・第 25 図-16
第 25 図-18

写真図版 8

第 25 図-18・第 25 図-22・第 25 図-24・第 25 図-25
第 25 図-27・第 25 図-28・第 25 図-30・第 25 図-32
第 26 図-2・第 26 図-4・第 26 図-14・第 26 図-17

第 I 章 はじめに

第 1 節 調査経過

平成 24 年 9 月、六坊北町においてコスモス薬品株式会社を事業主体とする店舗建設計画が立案され、設計者の大和ハウス工業株式会社より文化財課に埋蔵文化財包蔵地の照会があった。9 月 10 日には、店舗を RC 造とする基本プランを前提に、設計者と文化財課とで協議を行い、文化財課からは、中世大友府内町跡で高密度の遺構が存在する事を説明した上、遺構保存のできる計画とするよう依頼したが、設計者側からは本調査費用の積算が依頼され、9 月 20 日付けで積算結果を設計者側に提示した。その後、協議を継続した結果、記録保存の必要な部分の面積が比較的小さくなるような設計が採用される事になった。発掘調査委託契約額の算出にあたっては、事前の確認調査が困難なため、隣接する庄の原佐野線用地での発掘調査結果を基に費用積算を行った。平成 25 年 5 月 15 日に建物基礎部分と地中梁部分の周辺を広く遺構検出した上で、基礎部分のみを完掘する事とした最終的な調査計画書を事業主体者であるコスモス薬品株式会社に提示し、同意が得られたため、平成 25 年 5 月 23 日付けで埋蔵文化財発掘調査業務等の協定ならびに埋蔵文化財発掘調査委託契約を締結した。

この時点では 7 月からの調査着手を予定していたが、調査予定地内にある農業用水路の取扱いが未定であったため、水田作付け時期を迎えて、水路部分及び隣接水田周辺の発掘調査は困難となった。このため再度協議を行った結果、10 月以降に水路撤去を行った上で発掘調査に着手する事とし、調査終了時期を 12 月中旬とする事で合意した。その後水路について、初瀬井路土地改良区及び周辺農地地権者と協議し、平成 25 年 10 月 24 日に初瀬井路土地改良区に対し水路敷施工協議申請書を提出して、発掘調査範囲における水路撤去の同意を得た。

以上の経過を経て、平成 25 年 10 月 28 日より発掘調査に着手し、平成 25 年 12 月 14 日に埋戻しを完了して調査を終了した。

第 2 節 調査組織

調査主体者 大分市教育委員会 教育長 足立 一馬

調査体制（平成 25 年度）

大分市教育委員会教育部文化財課 課長 塔鼻 光司

参事 神田 洋

参事補 坪根 伸也

大分市歴史資料館

大分市埋蔵文化財保存活用センター

埋蔵文化財担当班

参事補（グループリーダー） 池邊千太郎

専門員 塩地 潤一

主査 佐藤 道文

主任（調査・整理担当） 長 直信

第Ⅱ章 遺跡の立地と環境

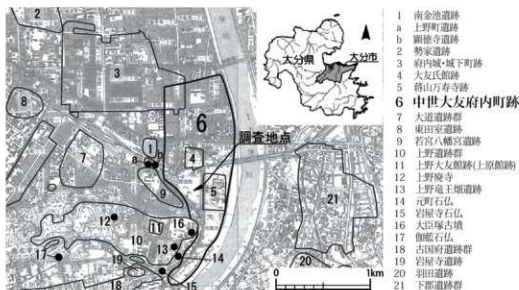
第1節 地理的環境

中世大友府内町跡は大分川下流域の左岸に位置する。大分川は久住連山や由布岳に源流を発して東流し、上野台地を境に北流へと転じて別府湾に注いでいる。流域には沖積低地と台地・丘陵が形成され、上野台地より下流域では自然堤防・後背湿地・旧河道・浜堤等の微地形が複雑に広がる様相を見せる。「微地形分類図」によると中世大友府内町跡第104次調査地点は大分川沿いに形成された自然堤防と上野台地縁辺に沿って見られる旧河道に挟まれた標高約5mの後背湿地上に位置している。

第2節 歴史的環境

中世大友府内町跡の位置する大分川下流域は、瀬戸内海へと繋がる水上交通の拠点的な地でもあり、古くから人々の生活の場であった。明確な遺構こそ確認されていないが、上野遺跡群では旧石器時代の流紋岩製二次加工剥片が、大道遺跡群では縄文時代前期から晩期の土器が出土している。上野台地上及び沖積低地において集落遺跡が確認できるのは弥生時代からである。中でも台地上に位置する上野遺跡は弥生時代中期の断面V字溝により区画された集落で、弥生時代後期前葉に位置付けられる特殊な祭祀遺構と考えられる内部に掘立柱建物等を有する隅丸長方形周溝遺構は特筆される。古墳時代の集落は主に低地部に確認されている。上野台地北側の低地部に位置する大道遺跡群は幅2～4mの環濠を有する古墳時代前期の集落で、猿形土製品やクスノキ製の完形臼等が出土している。近接する若宮八幡宮遺跡は玉作り工房を伴う古墳時代後期の集落で、大阪湾岸製の製塩土器等が出土している。また上野台地南側の低地部に位置する古国府遺跡群では南北約30mの方形区画溝が確認され、古墳時代中期から後期の拠点の一角と考えられている。こうした集落を基盤とした有力者の墳墓は台地上に連綿と形成されており、これらの古墳からは畿内との繋がりを示す様相が確認でき、この地が古代の豊後国の政治的中心地となっていく下地が窺える。

古代豊後国・大分郡の行政上の中心施設は大分川下流域に設置されたと考えられている。大分郡衙については大分川右岸に位置する下部遺跡群が比定されているものの、豊後国府の所在地については古国府遺跡群と上野台地上が候補地として考えられてきた。古国府遺跡群には「古国府」の地名が残る有力地ではあるが、羽屋・井戸遺跡や羽屋・岡遺跡からは「郡」成立以前の「評」に関係すると思われる掘立柱建物群や倉庫群が確認されているものの、国府に関係する遺跡はこれまでのところ確認されていない。一方、上野台地上には「高国府」の地名が残る、官衙的遺構が確認されている。上野台地東端部に位置する上野竜王畑遺跡からは、9世紀代と考えら



第1図 周辺遺跡位置図(1/40,000)

豊後支配の中心地として位置付けられ、中世大友府内町が形成される事となる。大友氏が豊後へ入国するのは13世紀中頃の3代頼泰とされるが、大友氏館跡の調査からはこの段階の遺構はこれまで確認されていない。古国府遺跡群内に位置する石明遺跡からは13世紀段階の区画溝・倉庫・井戸等の遺構群と共に池状遺構が確認され、入国段階の守護館の候補地と考えられているものの検討を要する。中世大友府内町跡で遺構が確認され、都市建設の開始が窺えるのは14世紀からである。それは1306年の5代貞親による万寿寺建立が契機であったと考えられるが、14世紀代の遺構の展開は調査成果から見るとあくまで部分的である。遺構が広範囲に本格的に展開するのは15世紀後半からであり、大友氏により都市整備が行われ、南蛮貿易等によりポルトガル宣教師や商人・中国・東南アジアの国際色豊かな人々が行き交う国際貿易都市「府内」となるのは21代義鎮（麟麟）・22代義統治世下の16世紀後半である。中世大友府内町の往時の様相を復元する資料として「府内古図」がある。最盛期である16世紀末頃の様子を描いた「府内古図」によると、大友館を中心として南北に4本・東西に5本の道路を格子状に配置し、道路に沿って40以上の町屋が形成され、万寿寺をはじめとする寺院やキリスト教会であるダイウス堂等の様々な宗教施設が混在していた事がわかる。その規模は『大分市史』中巻付図「地籍図」に残る戦国時代の府内・戦国時代の府内復原想定図によると、南北2.1km、東西0.7kmの範囲に及ぶと考えられ、長年にわたり行われてきた発掘調査の成果と復原想定図には大きな齟齬は見られない。

今回調査を行った中世大友府内町跡第104次は府内町の「ノコギリ町」付近に該当する。ノコギリ町は「府内古図」の御蔵場南端に描かれた斜行する道路に沿って展開した町屋である。中世大友府内町跡第41・77次等の周辺調査では銅製品の生産・加工場と見られる礫敷遺構や赤銅石製品の加工場の存在も推測されており、こうした生産に従事した職人の生活の場であったと考えられる。また町屋の後背部には溝状遺構により方形に囲まれた大友家臣団の居住地と考えられる区域も確認されている。

南蛮貿易により隆盛を極めた中世大友府内町も1586年の島津氏侵攻により焼失し、その火災の痕跡は各調査区において確認されている。その後町屋が一定の範囲で復興するものの、1593年の22代義統の豊後除国により大友氏の豊後支配は終わりを迎える。

大友氏除国後の豊後国は分割支配され小藩分立の状況となり、府内の領主はめまぐるしく交代していく。1594年府内に入封した早川長敏は旧大友館を修築して使用したといわれるが、大友氏館跡の調査からは島津侵攻以降に館が再興された痕跡は確認されておらず、敷地内にまで町屋が形成された状況が窺える。1597年に福原直高が入封すると、大分川と住吉川が海へと注ぐ水上交通の便の良い海辺に新たな城の築城と城下町の建設が始められる。1599年に二ノ曲輪三重櫓や三ノ曲輪家臣屋敷が完成した矢先、福原直高は改易となる。その後再び入封した早川長敏も、翌年には取り潰しとなる。1601年に入封した竹中重利は城の増築工事で城下町の建設に着手し、1602年に四重天守等の城郭中心部を完成させた。また城下町については城の周りに碁盤目状に区画された町屋を形成し、ここに中世大友府内町に所在した町屋や寺院を町名ともども移転させ、新たな町組に編入している。その後1605年に外堀の掘削、1608年に商船用の港「京泊」を作り、府内城・城下町が完成し、ここに現在の大分市中心部の原形が形作られた。1634年に入封した日根野吉明は初瀬井路の開削による新田開発を進め、中世大友府内町跡は以後水田へと変貌していく事となった。1658年には松平忠昭が入封し、以後薩藩置県まで松平氏の治世が続いていく。

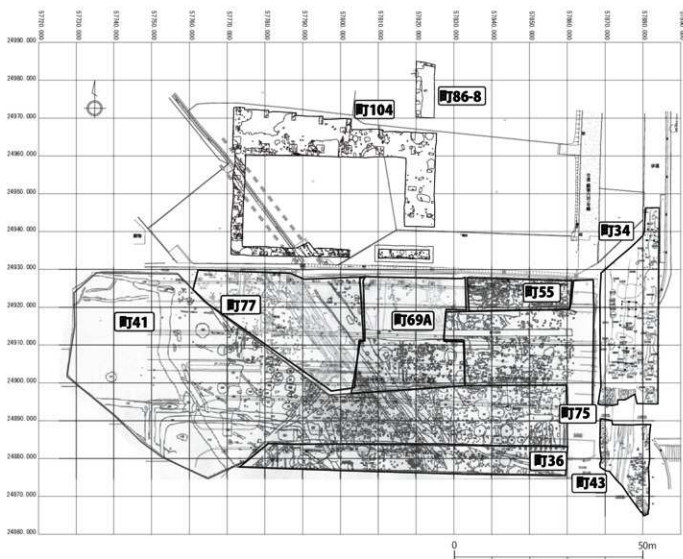
古代から現在に至るまで豊後国・大分県の政治・経済・文化の中心地であり続けている大分川左岸地域の中にある、中世大友府内町の遺構が比較的良好な形で残されたのは、島津侵攻により灰燼に帰した後、中心地が府内城・城下町へと劇的に移転し、水田化した結果でもある。そして当時の道路・区画・町割り等は現代までも通路・地割りとして踏襲し伝えられ、「戦国時代の府内復原想定図」の作成を可能とした大きな要因ともなった。現在、大友氏館跡等の発掘調査が進展し、国道10号拡幅工事・JR線高架工事・庄の原佐野線建設工事や店舗建設・住宅化等の開発により発掘調査が進められた結果、より具体的に中世大友府内町の様相を知る事が可能となりつつある。

第Ⅲ章 調査の成果

第1節 調査の概要

調査地は大阪市六坊北町に所在する。調査は店舗建設に伴い、平成25年10月28日から平成25年12月14日の期間に実施した。「府内古園」からの復元では調査地は御蔵場の南に位置する町屋「ノコギリ町」付近に該当する。現在この一帯は農地で、調査区の南から北西方向に向かって初瀬井路が通っており、「府内古園」に描かれた道路の位置を踏襲しているとされる。また隣接する中世大友府内町跡第77次（以下、「町〇次」と表記）の調査所見から、複数の遺構面と整地層・道路面の存在が想定されていた。

今回の調査では、遺構に影響を及ぼす建物基礎部分のみが遺構掘削の対象である。建物基礎部分についてはトレンチ全面に掘り下げていく事から、1区から反時計回りに合計29のトレンチを設定した。調査手順は、始めに店舗建設範囲を機械掘削後、遺構検出を行い、全体の様相を把握した。その後建物基礎部分の遺構を完掘し、整地層を掘り下げた後に下層遺構の検出・完掘を行った。店舗建設範囲の機械掘削については焼土面や礫が確認できた時点で止めているため、場所によっては遺構の検出が判然としない地点もある。全体の調査面積は856.7㎡で、遺構掘削面積は61.2㎡である。



第3図 調査地点位置図(1/1,000)

第2節 基本層序

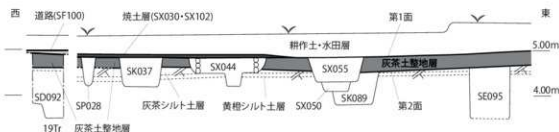
基本層序は調査区全体を通じて概ね同じ様相である。土層模式図(第4図)に示すように、耕作土・水田層(1・2)、整地層(3)、地山土(4・5)から構成される。

- 1 耕作土 現在の農地の耕作土で、調査区全面で確認できる。
- 2 水田層 近代・現代の水田層で、マンガン沈着層を含めて複数面認められる。調査区全面で確認できる。
- 3 灰茶土整地層 炭・焼土粒・遺物片・白色粒が混じる整地層。暗灰褐色を呈する場所もあるが、基本的に同質の整地層と考えている。整地層の厚さは約0.3m前後で、ほぼ同じ厚さで調査区全面に堆積している。
- 4 灰茶シルト土層 色調だけでは「灰茶土整地層」との判別が困難であるが、炭・焼土粒・遺物片・白色粒が混じっていないため地山土と考えている。「灰茶土整地層」掘削後、主に調査区西側で確認できた。
- 5 黄橙シルト土層 炭・焼土粒が混じらない地山土である。「灰茶土整地層」掘削後、調査区東側及び西側の「灰茶シルト土層」下位において検出できた。東から西に向かい緩やかに傾斜して堆積すると推測できる。

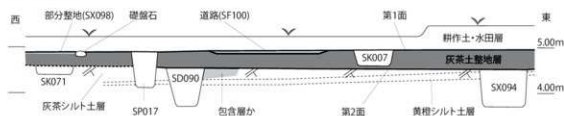
今回の調査では2面の遺構面と整地層を確認する事ができた。機械掘削後に検出した、標高約4.9m前後の灰茶土整地層上に形成された遺構群を第1面とする。水田による削平を受けているが、比較的遺存状態の良い遺構面である。灰茶土整地層掘削後に検出した、標高約4.6m前後の灰茶シルト土層・黄橙シルト土層上に形成された遺構群を第2面とする。第2面の検出標高は調査区全面で概ね揃っている事から、第2面形成時ないし灰茶土整地層が行われるに際し、地均し等の造成が行われた可能性も考えられる。

時期については、第1面が16世紀前半から末頃、第2面が14世紀から15世紀後半頃の遺構群である事から、灰茶土整地層は15世紀末頃から16世紀前半頃に形成された可能性が高いと考えられる。町77次の調査所見と比較すると、町104次第1面は町77次第1～4面に、町104次第2面は町77次第5面に対応すると考えられる(大分県教育庁埋蔵文化財センター2010)。

北側土層模式図



南側土層模式図



第4図 土層模式図



第5図 遺構配置図(1/200)

第3節 主要遺構

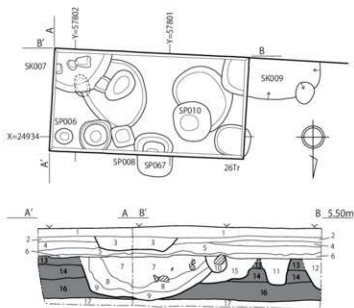
(1) 第1面(第5図)

検出した遺構は、16世紀前葉から末頃段階の土坑・道路状遺構・石組遺構・性格不明遺構・焼土層・部分整地・柱穴である。道路状遺構から直角に約24m程の範囲には柱穴が多く展開し、柱穴の一部には並びを想定できる柱穴列があるものの、調査区の制約もあり明確な掘立柱建物跡を復元するには至らなかった。遺構から出土する遺物はⅢCが主体となる。

土坑

SK009(第6図)

調査区南部のB8・B9グリッドで検出した土坑である。26Tr部分のみの掘削であったが、東西約1.1m、南北約0.3m以上の隅丸方形に近い形状と考えられ、検出面からの深度は約0.3m以上である。埋土は暗灰褐色土の単一層である。ⅢCが出土している。出土遺物から16世紀末頃に埋没したと考えられる。



1. 耕作土(暗表土)
2. 灰色水田層(粘質土・水田層)
3. 灰褐色粘質土(掘削設置時の覆土・コンクリート片混じり)
4. 灰褐色粘質土(マンガン沈着・粘性あり・締まっている)
5. 暗灰粘質土(マンガン沈着・白色粒・灰・焼土粒混じり)
6. 暗灰粘質土(マンガン沈着・締まっている)
7. 暗灰粘土(1~2cm大の灰・焼土粒が多く混じる・砂混じり)
8. 灰褐色土(灰・焼土粒・砂混じり)
9. 暗灰粘土(5mm大の灰・焼土粒混じり)
10. 暗灰粘土(砂・硬質)
11. 暗灰粘土(10層と同質・柱穴埋土)
12. 暗灰粘土(10層と同質)
13. 暗灰粘質土(土質は基本14層だが、マンガン沈着のため観察が困難)
14. 灰褐色土(灰・焼土粒・砂・白色粒混じり)
15. 暗灰粘土(1cm大の灰・焼土粒混じり)
16. 灰褐色土(シルト質・白色粒混じり・整地層)
17. 淡茶土(シルト質・灰・焼土粒・白色粒は混じらない・地山土)

※7~9層→SK007、10層→柱穴、11層→柱穴、12層→SK009、15層→土坑



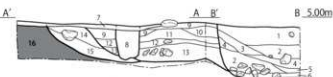
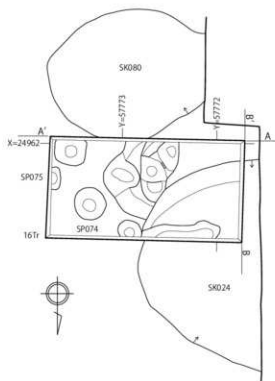
第6図 SK009遺構実測図(1/40)

SK024(第7図)

調査区北西部のI1・I2・J1・J2グリッドで検出した土坑である。16Tr部分のみの掘削であったが、南北約2.2m、東西約1.3m以上の楕円形を呈すると考えられ、検出面からの最大深度は約0.55mである。底面はほぼ平坦で、壁は直立気味に立ち上がる。底面直上からは拳大の礫がまとまって出土している。埋土には砂・砂利混じり土(1・3層)が見られ、近接する道路状遺構(SF100)に起因する砂が堆積した可能性が考えられる。ⅢC・漳州窯系青花碗等が出土している。出土遺物から16世紀末頃に埋没したと考えられる。

SK037(第8図)

調査区北西部のK3・K4グリッドで検出した土坑である。遺構は焼土層(SX030)に覆われていた。15Tr部分のみの掘削であったが、南北約1.4m、東西約0.5m以上の隅丸方形を呈すると考えられ、主軸方向はほぼ真北である。SX030掘削後の検出面からの最大深度は約0.6mで、底面はほぼ平坦である。SX096を切る遺構である。埋土はブロック土が混じる事から人為的に埋め戻されたと考えられる。ⅢC等が出土している。出土遺物から16世紀後半から末頃に埋没したと考えられる。



1. 暗灰褐土(砂・砂利が多く混じる 灰・焼土粒混じり)
2. 暗灰褐土(1層と比べ砂利の混じりは少ない)
3. 暗灰赤土(砂・砂利・灰・焼土粒混じり)
4. 暗灰褐土(砂利の混じりはほとんどない 砂・灰・焼土粒混じり)
5. 灰赤土(砂混じり) やや粘性あり
6. 灰赤土(シルト質) やや粘性あり
7. 灰赤土(マンガン沈着のため検出が難しい)
8. 暗灰褐土(砂利・灰・焼土粒混じり)
9. 灰赤土(全体的に砂利混じり)
10. 暗灰褐土(砂混じり)
11. 灰褐砂層(細砂)
12. 暗灰褐土(砂混じり) やや粘性あり
13. 暗灰褐土(砂混じり) 粘性あり
14. 灰赤土(砂混じり)
15. 暗灰土(砂混じり) 粘性あり
16. 灰赤土(灰・焼土粒・白色粒混じり) 整地層

※1～6層→SK024, 8層→柱穴, 9～13層→土坑, 14・15層→土坑

0 2m

第7図 SK024 遺構実測図 (1/40)



1. 焼土層(灰・焼土塊を多量に含む)
2. 暗灰褐土(黄褐土ブロック・灰・焼土粒混じり 人為的埋土)
3. 暗灰褐土(2層と比べ黄褐土ブロックの混じりが多い 人為的埋土)
4. 灰赤土(灰・焼土粒・白色粒混じり) 整地層
5. 暗灰土(黄褐土ブロック混じり 人為的埋土)

※1層→SK030, 2・3層→SK037, 5層→SK096

0 2m

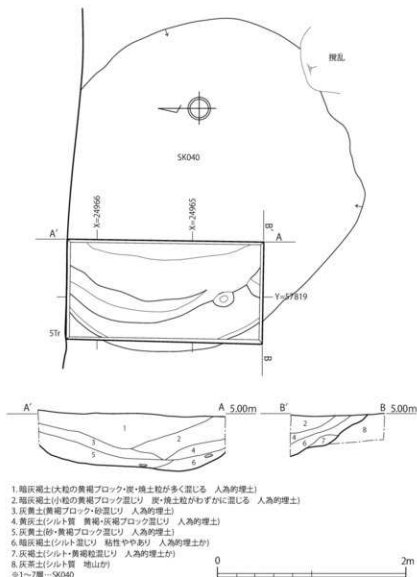
第8図 SK037 遺構実測図 (1/40)

SK040 (第9図)

調査区北東部のI13・I14・J13・J14グリッドで検出した土坑である。5Tr部分のみの掘削であったが、東西約3.4m、南北約3.1m以上の円形土坑であり、検出面からの最大深度は約0.55mである。壁面は緩やかに傾斜し、底面は概ね平坦である。埋土は全体的にブロック土が混じる事から人為的に埋め戻されたと考えられる。椀C・瀬戸・美濃系陶器皿等が出土している。出土遺物から16世紀末頃に埋没したと考えられる。

SK045 (第10図)

調査区北東部のH10・H11・I10・I11グリッドで検出した土坑である。東西約4.3m、南北約2.4m以上の楕円形を呈すると思われる。6Tr部分のみの掘削であり、底面を確認できていないが、検出面からの深度は約



第9図 SK040 遺構実測図(1/40)

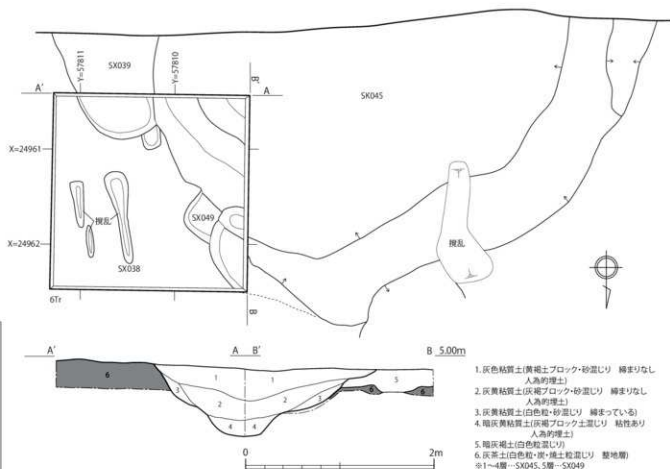
0.7 m以上で、2 段掘りに近い断面形状を呈すると思われる。SX049 を切る遺構である。埋土は全体的にブロック土が混じる事から人為的に埋め戻されたと考えられる。青花小坏等が出土している。出土遺物から 16 世紀後半から末頃に埋没したと考えられる。

SK046 (第 5 図)

調査区北東部の J11 グリッドで検出した土坑である。7Tr 部分のみの掘削であるが、径約 0.88 m の円形土坑と考えられ、検出面からの最大深度は約 0.6 m である。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。攪乱や SX036 に切られる遺構である。埋土は暗灰褐色土の単一層で、ブロック土の混じりがない事から自然に埋没したと考えられる。京都系土師器を模倣した土器や青白磁片・火打石等が出土している。出土遺物から 16 世紀後半頃に埋没したと考えられる。

SK080 (第 7 図)

調査区北西部の I2 グリッドで検出した土坑である。南北約 1.5 m・東西約 1.6 m 以上の楕円形を呈する。遺構の掘削を行っていないため不明な点が多いが、検出面の埋土中には砂・砂利が多く混じる事から、近接する道路状遺構(SF100)に起因する砂が堆積した可能性が考えられる。検出段階で燭台形土器が出土している。16 世紀代の遺構と考えられる。



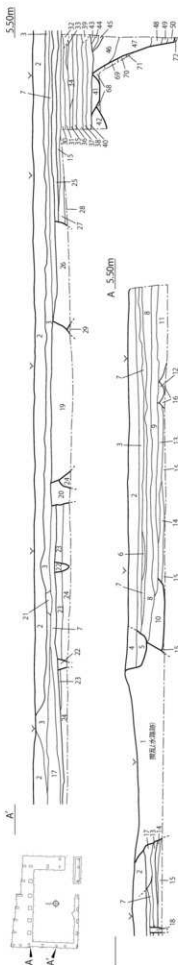
第10図 SK045 遺構実測図(1/40)

道路状遺構

SF100(第5・11・18図)

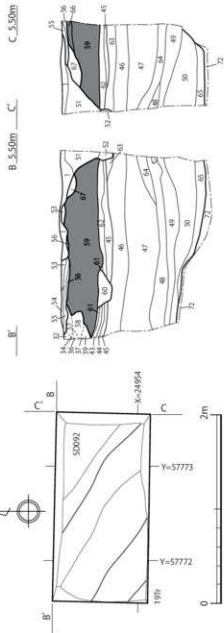
調査区西部のF2・G1・G2・H1・H2グリッドと、調査区南部のB5・B6グリッドで検出した道路状遺構である。灰茶土整地層の上面に固く締まった砂・砂利混じりの路面が数層薄く堆積しており、検出面からの最大深度は約0.1m前後である。主軸方向はN-40°-Wで、現在の地割に沿って北西方向に延びている。19Trでは路面を敷き均す前段階に小礫を充填する掘り込み(第11図67層)が確認され、地盤沈下防止等の目的が考えられる。検出段階での砂・砂利敷きの範囲(第5図・第18図SF100内トーン部分)は2区では幅約5.2m、3区では水田による削平やコンクリート擁壁に切られるため幅約1.4mしか残存していない。

道路側溝については、2区では道路端部が掘削範囲にかかっていないため詳細は不明であるが、19Trの南西側で灰茶土整地層を掘り込み砂混じり土が堆積するSX060が確認でき、側溝の可能性も考えられる。SX060の分層は判然としないが、上位層(褐色礫混じり砂土)からは皿Cが、中位層(褐灰砂質土)からは瓦質土器片・白磁皿等が、下位層(灰褐色砂利混じり土)からは土師質土器鍋・白磁皿・小坏等が出土している。3区では道路面の西側縁辺部で幅約0.2m、検出面からの深度は約0.07m、埋土が粘性のある黄灰土のSD103(7層)を検出した。また24Trの道路面下から整地層を掘り込む幅約0.3m、検出面からの深度約0.25m、埋土が砂・砂利混じり土のSD062(28・31・37~40・44層)を検出した。共に主軸方向がSF100とほぼ平行する事から側溝の可能性も考えられる。SF100の時期については、整地層上面に形成されている事から16世紀前葉から末頃と考えられる。なお現在の地割がSF100を踏襲している事から、近世以降も道路や畔道等として機能していた可能性が高い。



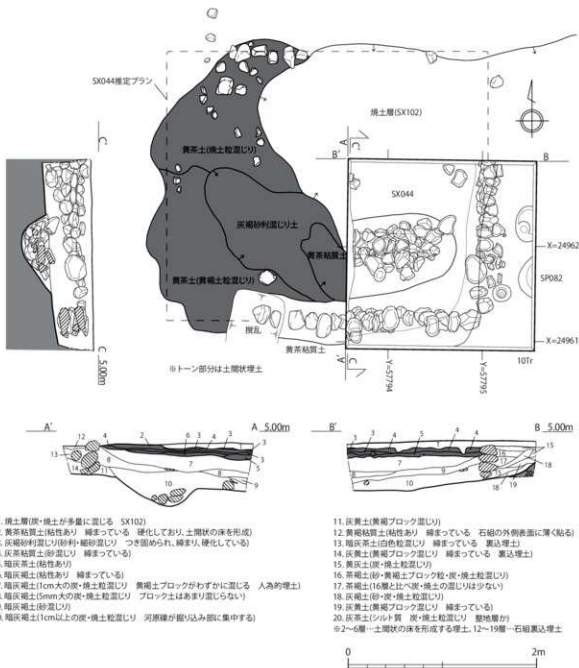
第11図 5F100・SD092遺構実測図(1/40)

1. 河床の水底調査時の掘り込み
2. 粉土(土)層の粉土層 締まりなし
3. 灰色土(砂)土、粘性土 締まりあり
4. 粉土(土)層に重なり、水田層
5. 灰色土(砂)土、粘性土 締まりあり
6. 灰色土(砂)土、粘性土 締まりあり
7. 灰色土(砂)土、粘性土 締まりあり
8. 河床粘土質土(マンガン)土、粘性土 締まりあり
9. 河床粘土質土(マンガン)土、粘性土 締まりあり
10. 河床粘土質土(マンガン)土、粘性土 締まりあり
11. 河床粘土質土(マンガン)土、粘性土 締まりあり
12. 河床粘土質土(マンガン)土、粘性土 締まりあり
13. 河床粘土質土(マンガン)土、粘性土 締まりあり
14. 河床粘土質土(マンガン)土、粘性土 締まりあり
15. 河床粘土質土(マンガン)土、粘性土 締まりあり
16. 河床粘土質土(マンガン)土、粘性土 締まりあり
17. 河床粘土質土(マンガン)土、粘性土 締まりあり
18. 河床粘土質土(マンガン)土、粘性土 締まりあり



36. 河床土(砂)土、粘性土 締まりあり
37. 河床土(砂)土、粘性土 締まりあり
38. 河床土(砂)土、粘性土 締まりあり
39. 河床土(砂)土、粘性土 締まりあり
40. 河床土(砂)土、粘性土 締まりあり
41. 河床土(砂)土、粘性土 締まりあり
42. 河床土(砂)土、粘性土 締まりあり
43. 河床土(砂)土、粘性土 締まりあり
44. 河床土(砂)土、粘性土 締まりあり
45. 河床土(砂)土、粘性土 締まりあり
46. 河床土(砂)土、粘性土 締まりあり
47. 河床土(砂)土、粘性土 締まりあり
48. 河床土(砂)土、粘性土 締まりあり
49. 河床土(砂)土、粘性土 締まりあり
50. 河床土(砂)土、粘性土 締まりあり
51. 河床土(砂)土、粘性土 締まりあり
52. 河床土(砂)土、粘性土 締まりあり
53. 河床土(砂)土、粘性土 締まりあり
54. 河床土(砂)土、粘性土 締まりあり
55. 河床土(砂)土、粘性土 締まりあり
56. 河床土(砂)土、粘性土 締まりあり
57. 河床土(砂)土、粘性土 締まりあり
58. 河床土(砂)土、粘性土 締まりあり
59. 河床土(砂)土、粘性土 締まりあり
60. 河床土(砂)土、粘性土 締まりあり
61. 河床土(砂)土、粘性土 締まりあり
62. 河床土(砂)土、粘性土 締まりあり
63. 河床土(砂)土、粘性土 締まりあり
64. 河床土(砂)土、粘性土 締まりあり
65. 河床土(砂)土、粘性土 締まりあり
66. 河床土(砂)土、粘性土 締まりあり
67. 河床土(砂)土、粘性土 締まりあり
68. 河床土(砂)土、粘性土 締まりあり
69. 河床土(砂)土、粘性土 締まりあり
70. 河床土(砂)土、粘性土 締まりあり
71. 河床土(砂)土、粘性土 締まりあり
72. 河床土(砂)土、粘性土 締まりあり

5F100・SD092遺構実測図(1/40)
 67層・掘り込み・重なり・水田層 60層・掘り込み・重なり・水田層
 43・50・61・65層・掘り込み・重なり・水田層

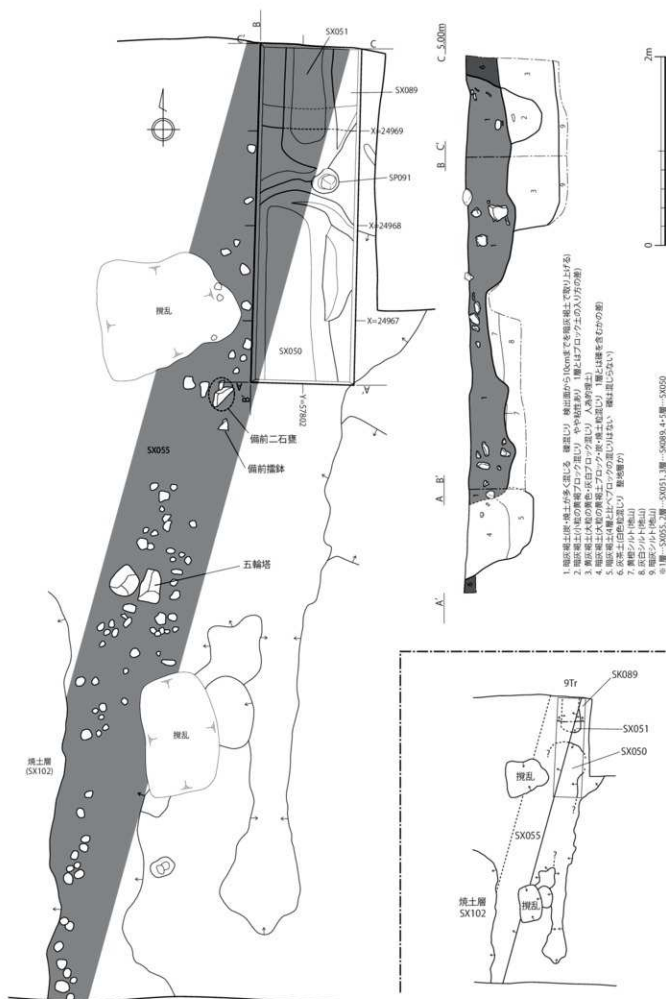


第12図 SX044遺構実測図(1/40)

性格不明遺構

SX044(第12図)

調査区北部の17グリッドで検出した石組遺構である。遺構の大部分が焼土層(SX102)に覆われている。10Tr部分のみの掘削であったが、南東コーナーが検出できた事や周辺で石組の続きと考えられる礫が散見できる事から、石組は方形を呈すると推測できる。壁面には拳大から人頭大の扁平な川原石を3ないし4段積み上げている。床面は中央部に向かい緩やかに傾斜しており、平坦ではない。検出面からの最大深度は約0.5mである。石組内の南側には楕円形と考えられる掘り込みがあり、拳大から人頭大の礫を充填している。この掘り込みは床面に埋土(11層)が堆積した後に掘り込まれている事から、初期の機能とは異なる利用がなされたと考えられる。礫の充填する下位層はブロック土の混じらない埋土(8～10層)が自然堆積し、石組の上面部付近まで人為的に埋められた(7層)後、灰褐砂利層と粘質土層を薄く相互に敷き固めた土間状の床面(2～6層)が形成される。



第13図 SX050・SX051・SX055 遺構実測図 (1/40)

SX102に覆われる為全容は不明だが、この土間状の床面(第12図平面図トーン部分)は石組より内側でのみ認められる可能性があり、東西約3.5m、南北約3.0mの土間状の空間が想定される。石組の裏込土中と石組内埋土からは皿C・中国陶器等が出土している。出土遺物より石組遺構の機能時から廃絶までの期間は16世紀中頃から末頃と考えられる。

SX050(第13図)

調査区北部のJ9・K9グリッドで検出した遺構である。9Tr部分のみの掘削であるため不明な点が多いが、東西約0.55m以上、南北約1.25m以上の長方形を呈すると考えられ、検出面からの最大深度は約0.7mである。主軸方向はほぼ真北である。SX055と土色・土質が似ているため分層が困難であったが、礫の混じり方によりSX055に切られると判断した。馬歯・皿C・景德鎮窯系青花碗・漳州窯系青花皿等が出土している。出土遺物と遺構の切り合い関係から、16世紀後半から末頃に埋没したと考えられる。

SX051(第13図)

調査区北部のK9グリッドで検出した遺構である。9Tr部分のみの掘削であるため不明な点が多いが、東西約0.8m以上、南北約2.0m以上の長方形を呈すると考えられ、検出面からの最大深度は約0.8mである。主軸方向はほぼ真北である。SK089を切り、SX055に切られる。馬歯・下顎骨・皿C・備前播鉢・景德鎮窯系青花碗・軒平瓦等が出土している。出土遺物と切り合い関係から16世紀後半から末頃に埋没したと考えられる。

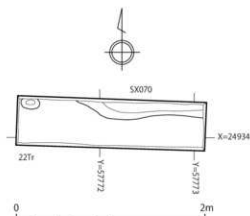
SX055(第13図)

調査区北部のH8・I8・I9・J8・J9・K9グリッドで検出した遺構である。検出段階で遺構の明確なラインは認識できなかったが、南北方向に礫が帯状に検出できたことから、礫の集積する部分を遺構の範囲と判断した。礫範囲は南北約10.2m以上、幅約0.5～0.7m以上、主軸方向はN-13°Eである。礫のほとんどが約0.1～0.2m大の川原石で、中には凝灰岩製の五輪塔火輪の再加工作品や備前甕・備前播鉢等の遺物が混入する。9Trの土層観察によると検出面からの最大深度は約0.5mで、SX050・SX051を切ると考えられる。出土遺物と切り合い関係から16世紀末頃に埋没したと考えられる。

SX070(第14図)

調査区南西部のB1・B2グリッドで検出した遺構である。22Tr部分のみの掘削のため不明な点が多いが、東西幅約1.35m以上、南北幅約0.2m以上の隅丸方形を呈すると推測でき、検出面からの最大深度は約0.8mである。周辺部はSX098が覆い、更に土坑ないし部分整地埋土の一部とも考えられるSX020に切られるため検出

面上では確認できなかったが、第1面に属する可能性が高いと考えられる。ほぼ完形の小皿Bnが出土している。出土遺物と切り合い関係から16世紀前葉頃に埋没したと考えられる。



第14図 SX070 遺構実測図(1/40)

SX097(第5図)

調査区南西部のB2・B3グリッドで検出した遺構である。遺構の掘削を行っていないため不明な点が多いが、大粒の黄褐ブロック土が多量に混じる特徴的な埋土であることから井戸の可能性も考えられる。東西約3.4m・南北2.2m以上の楕円形に近い形状と考えられる。SX098とSK101を切る遺構である。出土遺物はないが、切り合い関係から16世紀代でも新しい時期と考えられる。

整地層

SX030 (第5図)

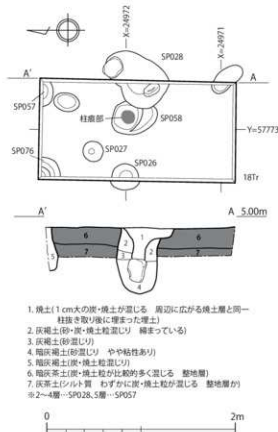
調査区北西部のJ2～J4・K2～K5・L3・L4グリッドで検出した炭・焼土が多量に混じる焼土層である。15・17Trでは検出面から約0.1mの深さで堆積しており、SX037を面的に覆っている。15Tr掘り下げ時には皿C等が出土している他、遺構検出時に焼土層範囲のグリッドから凝灰岩製鋳型(第25図24)・鉄砲玉(第25図28)・菌形分銅(第25図30)・ガラス製小玉(第25図32)等が出土しており、SX030に帰属する可能性が高い。出土遺物から16世紀末頃に形成されたと考えられる。なお焼土層上面に展開する遺構は確認できない。

SX102 (第5図)

調査区北部のH7・H8・I7・I8・J7・J8グリッドで検出した炭・焼土が多量に混じる焼土層である。10Trでは検出面から約0.06mの深さで堆積しており、SX044を面的に覆っている。遺構検出時に焼土層範囲のグリッドから鉄砲玉(第25図27)等が出土しており、SX102に帰属する可能性が高い。切り合い関係から16世紀末頃に形成されたと考えられる。SX030と同様、焼土層上面に展開する遺構は確認できない。

SX098 (第5図)

調査区南西部のB1・B2・C1・C2グリッドで検出した部分整地である。粒子の細かい黄褐砂質土・灰褐砂質土等の異なる埋土が複数堆積し、土間状の床面を形成していたと考えられる。検出標高は約4.9mで、SX020・SX097に切られる。また部分整地の北側縁辺部では被熱した礎盤石が検出されており関連性が注目される。



第15図 SP028 遺構実測図 (1/40)

柱穴

SP028 (第15図)

調査区北西部のK2・L2グリッドで検出した柱穴である。18Tr部分のみの掘削であったが、径約0.4mの円形の掘方内に、径約0.14mの柱痕を検出した。検出面からの最大深度は約0.7mである。柱痕底には根締石と考えられる礎が入っており、柱痕内の埋土には焼土が多く混じる事から、柱穴周囲を浅く掘り込み柱を抜き取った後、焼土で埋まったと考えられる。この焼土は周囲に広がるSX030に関連するものである可能性が高い事から、16世紀末頃に埋没したと考えられる。

SP054 (第5図)

調査区北西部のI3グリッドで検出した柱穴である。長さ約0.25mの礎上に備前藩鉢片と景徳鎮窯系青花碗の破片が重なるように出土した。出土遺物から16世紀末頃と考えられる。

柱穴列

柱穴列1～6 (第5図)

柱穴列1～6が想定できた。柱穴列1はI3・I4グリッドで検出したもので、柱間は約2.2m、主軸方向はW-6°Nで

ある。柱穴列2はB4・B5グリッドで検出したもので、柱間は約2.0～2.2m、主軸方向はW-3°-Nである。柱穴列3はB8・B9グリッドで検出したもので、柱間は約1.5～1.7m、主軸方向はW-2°-Nである。柱穴列4はB8・B9グリッドで検出したもので、柱間は約2.2m、主軸方向はW-5°-Nである。柱穴列5はB8・B9グリッドで検出したもので、柱間は約2.0～2.2m、主軸方向はW-6°-Nである。柱穴列6はB12・B13グリッドで検出したもので、柱間は約1.5～1.8mで全て一律ではなく、主軸方向はW-5°-Nである。調査区が狭く判然としないが、これらは掘立柱建物跡を構成した柱穴列と考えられる。

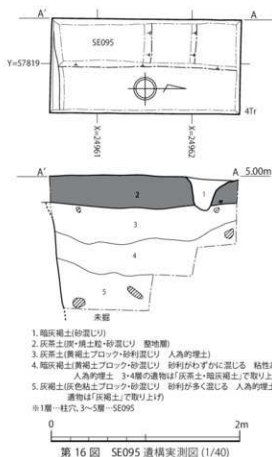
(2) 第2面(第5図)

検出した遺構は、14世紀から15世紀後半段階の井戸跡・土坑・溝状遺構・性格不明遺構・柱穴である。トレンチ内の部分的な掘削のため、遺構の性格・規模等不明な点が多いが、大型遺構を中心に検出した。遺構から出土する遺物はⅢCを含まないⅡA・ⅡBが主体となる。

井戸跡

SE095(第16図)

調査区北東部のI13グリッドで検出した遺構である。灰茶土整地層掘削後に検出した遺構で、4Tr南端で遺構端部を検出した。階段状にサブトレンチを入れ掘削を行ったが、灰茶土整地層掘削後の検出面から約1.1m(標高3.6m)まで掘り下げても完掘するに至らなかった。遺構の壁面はほぼ垂直に立ち上がり、埋土はいずれもブロック土混じりの人為的に埋め戻されたと考えられる事から、井戸跡である可能性が高いと推測した。灰茶土・暗灰褐土(3・4層)からはⅡAが、灰褐土(5層)からは瀬戸・美濃系陶器鉢皿等が出土している。出土遺物と灰茶土整地層下位の遺構である事から、15世紀後半以前の遺構と考えられる。



第16図 SE095 遺構実測図(1/40)

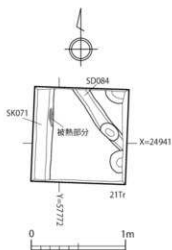
土坑

SK071(第17図)

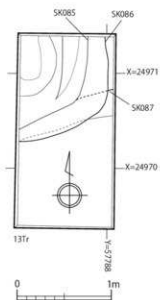
調査区南西部のD1グリッドで検出した遺構である。灰茶土整地層掘削後に検出した遺構で、21Tr部分のみの掘削のため不明な点が多いが、南北約0.95m以上、東西約0.15m以上の方形を呈する土坑と考えられ、整地層掘削後の検出面からの最大深度は約0.15mである。主軸方向はほぼ真北である。底面近くには拳大の礫が集中し、中には被熱した礫もある。壁面東側は被熱により変色し、床面付近では灰が薄く堆積している。ⅡA・ⅡB質土器火鉢等が出土している事や、灰茶土整地層下位の遺構である事から15世紀前葉から15世紀後半頃に埋没したと考えられる。

SK085・086(第18図)

調査区北部のK5・K6グリッドで検出した土坑である。灰茶土整地層掘削後に検出した遺構で、SK085とSK086は埋土の違いで分けているが、本来は一連の遺構で、SK086の炭・焼土混じりの暗灰褐土が自然堆積



第 17 図 SK071 遺構実測図 (1/40)



第 18 図 SK085・SK086・SK087 遺構実測図 (1/40)

した後に、SK085 の黄褐ブロックの混じる灰黄褐土により人為的に埋め戻されたと考えられる。東西約 0.9m 以上、南北約 1.1 m 以上の円形を呈すると考えられ、灰茶土整地層掘削後の検出面からの最大深度は約 0.83 m である。環 A・吉備系土師器等が出土している事や、灰茶土整地層下位の遺構である事から 14 世紀後葉から 15 世紀後半頃に埋没したと考えられる。

SK087 (第 18 図)

調査区北部の K5・K6 グリッドで検出した土坑である。13Tr 部分のみの掘削のため不明な点が多いが、南北約 1.4 m 以上、東西約 1.0 m 以上の円形に近い形状と考えられ、灰茶土整地層掘削後の検出面からの最大深度は約 0.35 m である。埋土は灰茶褐土の単一層である。SK085・SK086 に切られる。環 A・小皿 A・土師質土器銅等が出土している事や、切り合い関係から 15 世紀後半以前に埋没したと考えられる。

溝状遺構

SD090 (第 19 図)

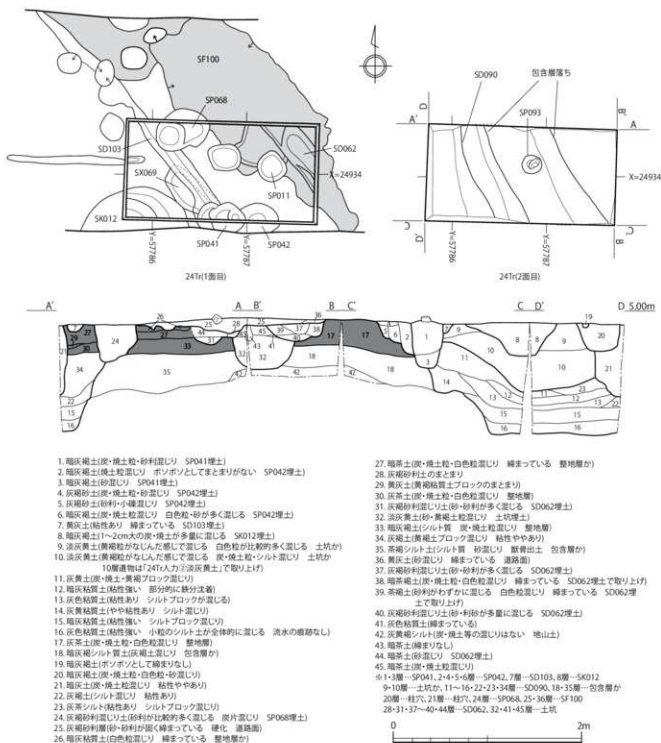
調査区南部の B5 グリッドで検出した溝状遺構と考えられる遺構である。24Tr 南壁では土坑と考えられる遺構 (9・10 層) により深くまで切られているが、北壁の土層観察から整地層掘削後の最大深度は約 0.8 m (標高約 3.7 m)、断面形状は立ち上がりが急な台形を呈し、底面は平坦である。上場ラインは若干カーブを描いているが、下場は直線的で、下場での主軸方向は N-21°-W である。最下層には滞水環境下の堆積と考えられる粘性の強い灰色粘質土 (15・16 層) が堆積し、その後は黄褐土ブロック混じりの灰褐土 (34 層) により人為的に埋め戻されたと考えられる。遺物の出土はないが、灰茶土整地層下位の遺構である事から 15 世紀後半以前に埋没したと考えられる。

なお SD090 の東側では地山土の判断が困難であり、地山土と判断できる 42 層まで掘り下げた結果、西に向け緩やかに傾斜する落ちが確認でき、この埋土中 (18・35 層) から散骨が出土した。

24Tr 部分のみの掘削であるため不明な点が多いが、現状では 18・35 層は 24Tr のみで確認できる包含層と考えられる。SD090 はこの包含層を切る関係にあり、包含層の落ちラインは SD090 とほぼ軸を同じくする。

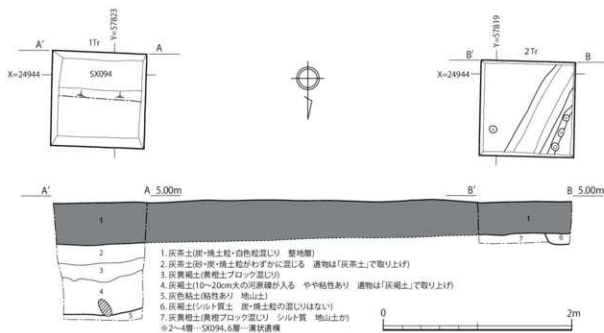
SD092 (第 11 図)

調査区西部の G2 グリッドで検出した溝状遺構と考えられる遺構である。19Tr 部分のみの掘削のため不明な点が多いが、整地層掘削後の検出面からの最大深度は約 1.15 m (標高約 3.5 m)、底面付近でわずかに段がつく程度の 2 段掘りで、主軸方向は W-33°-N である。最下層には滞水環境下の堆積と考えられる粘性の強い暗灰粘質土 (65 層) が堆積し、黄褐ブロック混じりの灰黄粘質土 (50 層) で人為的に埋め戻された後は、自然堆積したと考えられる。19Tr の北壁・東壁土層では灰 (64 層) がまとまって検出されているが、この灰層が北東方向から南西方向に傾斜して堆積する事を考慮すると、SD092 の北側の立ち上がりは未検出だが幅約 2.0m 前後の比



第19図 SF100・SD090 遺構実測図(1/40)

較的幅の狭い溝状遺構と推測される。SD092は最終的には黄褐ブロック泥じり土(45層)や灰褐砂・砂利層等(43・44層)により人為的に埋め戻されるが、これらは整地を行う前段階に地盤を安定させる目的で埋められたと考えられる。こうした地盤安定化の必要性は、発掘調査時にSD092辺りの足場の締まりが弱かった事からも窺える。最下層からの遺物の出土はないが、下位層である暗灰粘質土(49層)・灰褐粘質土(47層)からは坏A・土師質土器銅等が、上位層である黄褐ブロック泥じり土(45層)・19Tr茶褐土・暗灰褐土(62層)からは坏A・小皿A・銅銭・土師質土器銅等が出土している。出土遺物や灰茶土整地層下位の遺構である事から、15世紀後



第 20 図 SX094・2Tr 遺構実測図 (1/40)

半以前の遺構と考えられる。

なお SD090 と SD092 には埋土や規模、SF100 が後に直上ないし近接して形成されるという位置関係等の類似点が認められるものの、直線的な溝を想定した場合、軸が合わないことから現状では別遺構と推測される。

性格不明遺構

SX094 (第 20 図)

調査区東部の D14・E14 グリッドで検出した遺構である。灰茶土整地層掘削後に検出した遺構で、1Tr 全てが遺構内に当たるため、形状・規模については不明であるが、南側にサブトレンチを設定し底面まで掘り下げた結果、整地層掘削後の検出面からの最大深度は約 0.75 m (標高約 3.75m) で、底面は平坦であるが西に向かい緩やかに立ち上がる。最下層は自然堆積と考えられるやや粘性のある灰褐色土 (4 層) で、人頭大の礫が多く混じる。その後黄褐色土ブロック混じりの灰黄褐色土 (3 層) と灰茶土 (2 層) が堆積していることから人為的に埋め戻されたと考えられる。最下層の灰褐色土 (4 層) からは環 A・小皿 A が、上位層の灰茶土 (2 層) からは環 A・小皿 B・土師質土器鍋・皿 C が出土している。この皿 C については取り上げ段階で混入した可能性が高いものである。出土遺物と灰茶土整地層下位の遺構であることから、15 世紀後半頃に埋没したと考えられる。

柱穴

SP088 (第 5 図)

調査区東部の F13 グリッドで検出した柱穴である。整地層掘り下げ後の黄緑シルト土層上で検出できた柱穴で、径約 0.35 m の円形を呈し、整地層掘削後の検出面からの最大深度は約 0.33 m である。埋土は灰茶シルト質土の単一層である。SP066 に切られる。環 A が出土していることや、整地層下位の遺構であることから、15 世紀後半以前に埋没したと考えられる。

第4節 出土遺物の概要

今回の調査では、コンテナ7箱の遺物が出土した。出土遺物は、縄文時代晩期から17世紀代までの幅広い時期にわたっているが、主体となるのは14世紀から16世紀末頃にかけてのものである。今回掲載できていない遺物は数多くあるが、主要遺構の時期を示すものや特殊な遺物を中心に掲載・報告を行う。また本文中に記載のなかった遺構及び出土遺物については遺構出土遺物一覧表(表1～表3)を、遺物の種類・名称・法量については遺物観察表(表4～表14)にゆずり、ここでは特に重要と思われる遺物(図中の○番号の資料)についてのみ記述する。トレンチ内の整地層掘削時に出土した遺物については、各トレンチの整地層の土色で取り上げを行っている。概ね整地層は灰茶土を呈しており、特に土色の記載がなく人力①と略記したものについても灰茶土整地層の事である。人力②と記しているものは検出面から30cm掘り下げ以降に出土した遺物である。遺構埋土については土色を付し、土色を記載していないものは整地層である。

1区K3グリッド検出時出土遺物(第25図)

24は凝灰岩製の鋳型である。鋳型は長さ2.5cm、幅4.8cm、厚さ1.2cmの長方形を呈し、中央部に径1.0cmの半球形の窪みがある事から、同様の鋳型を合わせて玉を製作したと考えられる。上面の両端部付近には鋳型合わせの目印ないし固定用と推測される浅い線刻が2本見られる。また上面の中央には半円形の浅い窪みがあり、これが浅い削り込みにより半球形の窪みと繋がっている事から、溝口ないし軸通しと推測される。鋳型の外表面には赤褐色・淡緑色のガラス質滓が付着している(トーン部分)。

1区I10グリッド検出時出土遺物(第25図)

25は滑石製のスタンプである。石鍋を再加工したもので、長さ6.5cm、幅4.8cmの長方形を呈する。表面を平坦に加工した後に「草文」と考えられる文様を陽刻する。裏面は石鍋の銚部に紐通しと考えられる穿孔を施す。町10次I区・町20次B区・町30次・町60次・町88次(文様なし・裏面銚部に穿孔)等で類例が認められる。

1区I7グリッド検出時出土遺物(第25図)

27は鉛製の鉄砲玉である。表面の大部分が白く錆付き剥落しているものの、鈍い銀色の地肌を残す部分もある。製作時の鋳型のあわせ目が認められる。径1.3cmの球形で、重量は9.8gである。

1区J2グリッド検出時出土遺物(第25図)

28は鉛製の鉄砲玉である。表面全体は白く錆付いている。中央に一条の傷が入る。製作時の鋳型のあわせ目が認められる。径1.3cmの球形で、重量は11.0gである。

1区J4グリッド検出時出土遺物(第25図)

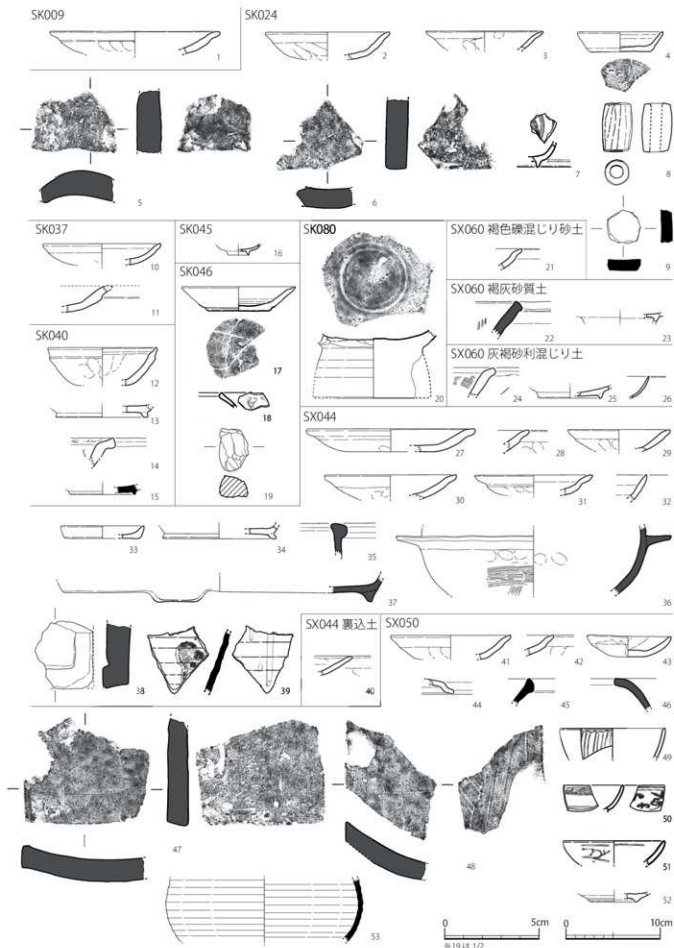
30は青銅製の鋸形分銅である。表面全体が錆付き剥落しているため、重量表記や鉛注入口等は確認できない。長さ2.0cm、最大幅1.3cm、重量は7.7gである。

3区B6グリッド検出時出土遺物(第26図)

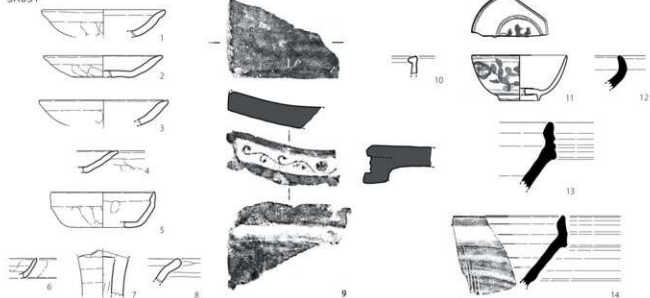
1は備前の播鉢の胴部と考えられる破片である。外面と思われる面に縦方向の条線が施されている。条線の施される面はナデ調整を行うものの器壁はやや粗く、裏面はナデ調整により器壁は滑らかである。歪みが大い播鉢の内・外面を逆に認識している可能性もある。

3区B3グリッド検出時出土遺物(第26図)

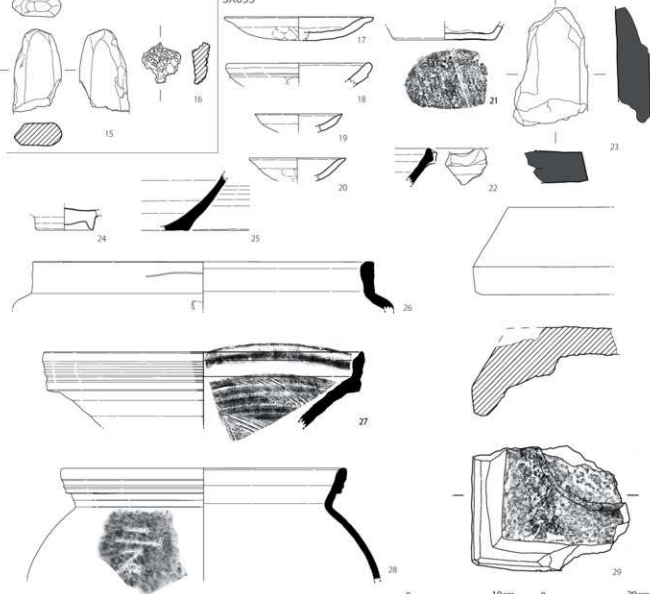
2は赤間石製の硯である。幅1.0cmの直線的に削り出した縁があり、陸部には擦痕と墨の痕跡(トーン部分)



SX051



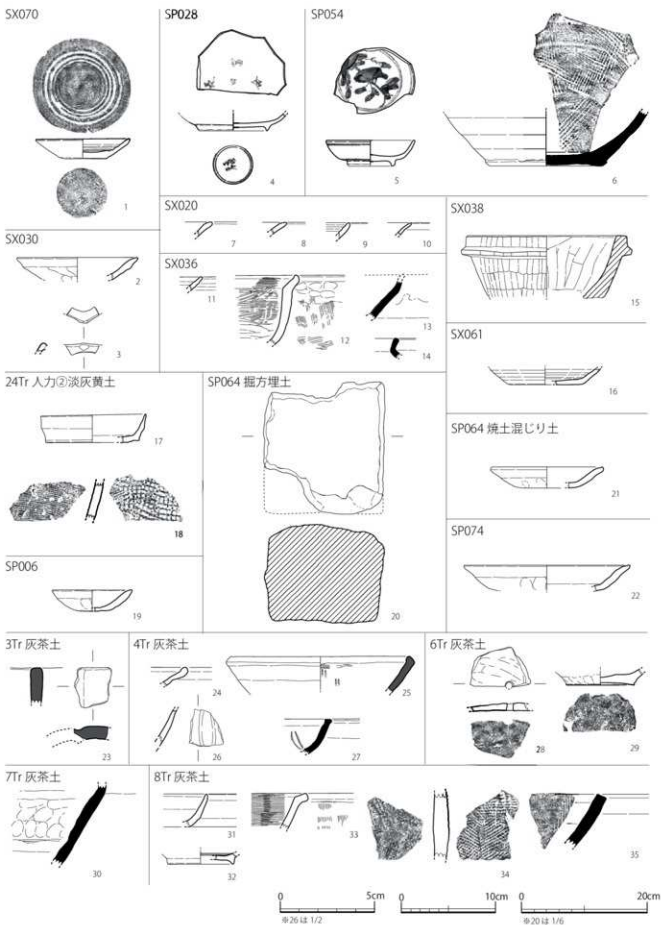
SX055



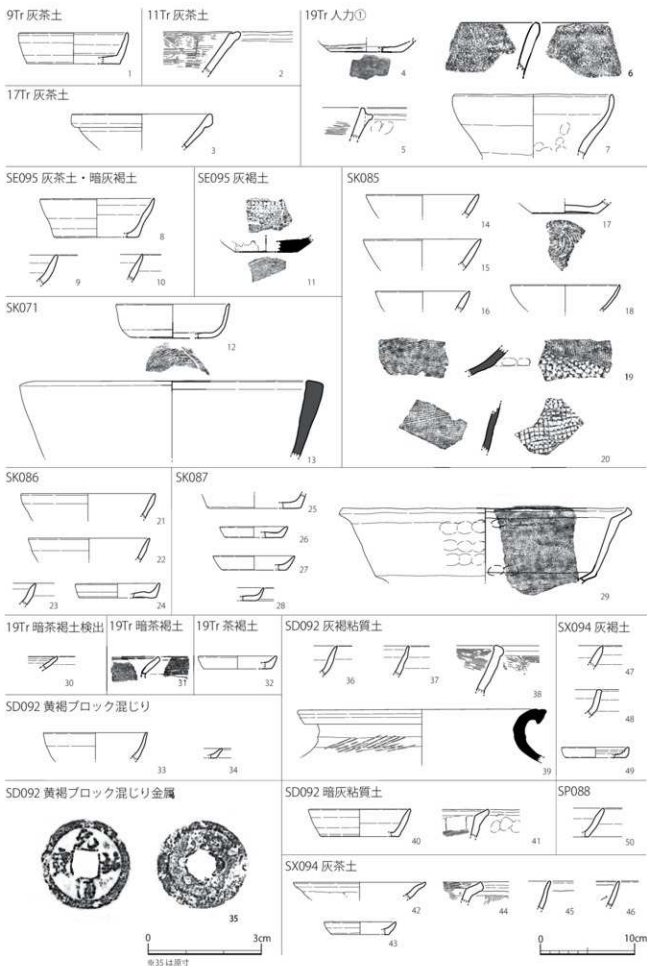
0 10cm

0 20cm
※28・29は1/8

第22図 SX051・SX055 出土遺物実測図 (1/4・1/8)

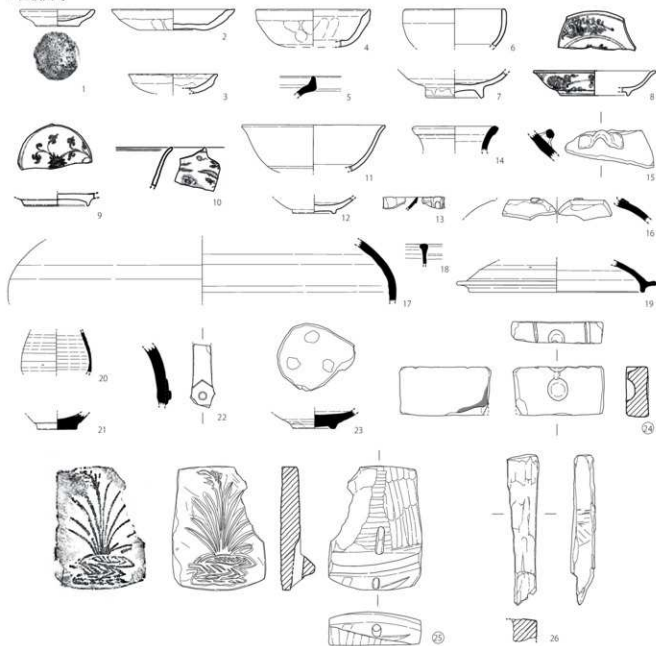


第 23 図 SX070・SX030・SP028・SP054・その他の第 1 面遺構・3Tr・4Tr・6Tr・7Tr・8Tr 出土遺物実測図 (1/2・1/4・1/6)

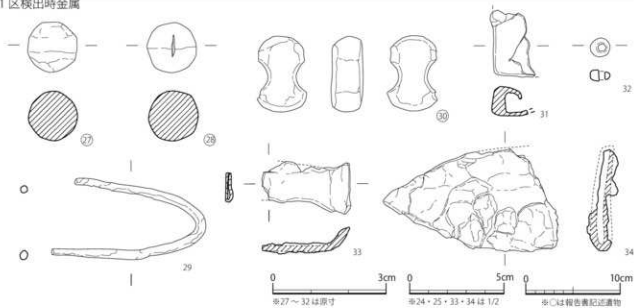


第 24 図 9Tr・11Tr・17Tr・19Tr・SE095・SK071・SK085・SK086・SK087・SD092・SX094・SP088 出土遺物実測図 (1/1・1/4)

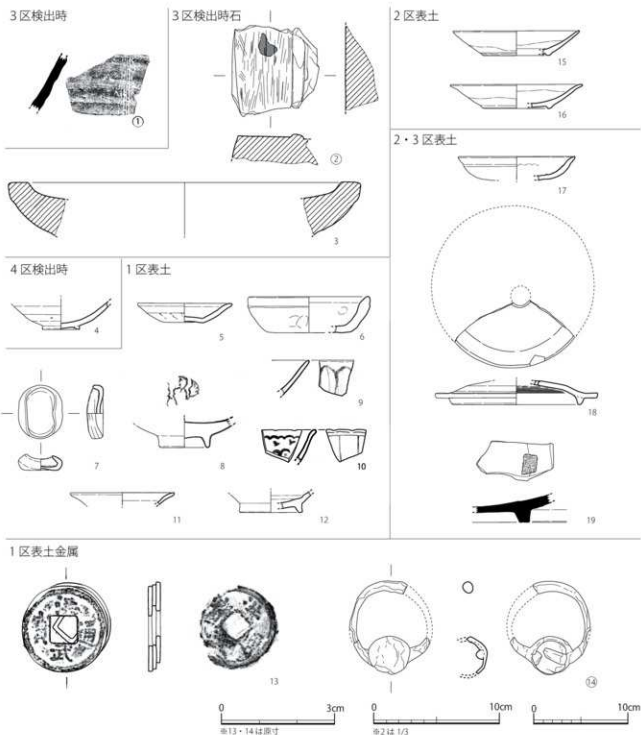
1 区検出時



1 区検出時金属



第25図 1区検出時出土遺物実測図 (1/1・1/2・1/4)



第26図 3区検出時・4区検出時・1区表土・2区表土・3区表土出土遺物実測図(1/1・1/3・1/4)

が認められる。割れているため全形を窺い知る事は出来ないが、残存長7.3cm、残存幅7.0cmである。側面は表面が平滑になっていることから、砥石として再加工されたと考えられる。被熱の痕跡がある。

1区表土金属出土遺物(第26図)

14は青銅製の環付き金具である。半球形の銅板に銅線の輪を取り付けている。線は半球の両側から差し込まれ、内部で僅かに折られて抜けないようにしている。表面は全面が錆付き模様等は確認できないが、表面に施された金メッキがわずかに残存する。

表1 遺構出土遺物一覧表①

番号	遺構番号	性格	層位	遺物	図り合い	時代	広域	グリッド	備考	
1	SP001	柱穴	陥没土層	中国磁器 磁器系青磁碗口 破	2→1	16世紀代	4尺 29寸	B14	内照	
2	SK002	土坑	陥没土層 (灰・焼土粒多)	土師器 土師器C	2→1	16世紀代	4尺 29寸	B14	東向き 横内照	
3	SK003	土坑	陥没土層 (砂)	土師器片	3→東向き土坑	16世紀代	4尺 28寸	B13	横丸方形	
4	SP004	柱穴	陥没土層	土師器片(古代)		16世紀代	4尺 27寸	B11	内照	
5	SP005	柱穴	陥没土層 (灰・焼土粒多)	土師器 土師器C・土師器片 瓦葺土層土師器片	南無柱穴→5	16世紀後半～末	4尺 27寸	B11	やや方形に近い	
6	SP006	柱穴	陥没土層 (灰・焼土粒多)	土師器 土師器C		16世紀後半～末	3尺 26寸	B9	内照	
7	SK007	土坑	陥没土層 (灰・焼土粒多)	中国磁器 磁器系青磁片 白磁土片 土師器・小片	瓦葺土層(深部内照) 玉砂利	16世紀代	3尺 26寸	B9	内照か	
8	SP008	柱穴	陥没土層 (灰・焼土粒多)	土師器 土師器C・小片		16世紀代	3尺 26寸	B9	方形	
9	SK009	土坑	陥没土層 (灰・焼土粒多)	土師器 土師器C		16世紀末	3尺 26寸	B8-B9	横丸方形	
10	SP010	柱穴	陥没土層	土師器 土師器B・小片 土師器土層土師器片	白色伊達土師器 破	16世紀代	3尺 26寸	B9	方形	
11	SK011	砂溜り	灰褐色砂溜り土	土師器土層片		16世紀代	3尺 24寸	B5	道路砂の溜り 柱穴ではない	
12	SK012	土坑	陥没土層 (灰・焼土粒多)	壁土	玉石	16世紀代	3尺 24寸	B5	横内照か	
13	SP013	柱穴	陥没土層 (灰・焼土粒多)	瓦葺土層 小片	鉄製品 鉄釘	15→14→13	16世紀代	3尺 23寸	B4	内照
14	SP014	柱穴	陥没土層	瓦葺土層 土師器片		15→14→13	16世紀代	3尺 23寸	B4	内照 柱盤あり
15	SK015	土坑	陥没土層 (灰・焼土粒多)	土師器 土師器C・灰A	瓦葺土層片	16→15→14	16世紀代	3尺 23寸	B3-B4	不定形 縦置き 溝い取り込み
16	SP016	柱穴	陥没土層	土師器 土師器C・灰A (古瀬戸)		16→15→14	16世紀代	3尺 23寸	B3-B4	方形
17	SP017	柱穴	陥没土層 (灰・焼土粒多)	土師器 土師器C			16世紀代	3尺 23寸	B3	内照
18	SP018	柱穴	陥没土層 (灰・焼土粒多)	土師器 土師器B			16世紀代	3尺 23寸	B3	横内照 浅い掘り込み
19	SP019	柱穴	陥没土層	土師器 土師器C・灰A・小片	瓦葺土層 深部・小片	西側柱穴→19-51	16世紀後半～末	3尺 23寸	B3	方形 SP019と同一 19土位置(5尺下位置) 土坑ないし部分埋地の 一部か
20	SK020	不明	陥没土	中国磁器 磁器系青磁片 景徳鎮窯青花磁器(破)	土師器 土師器C・灰B 灰A(大内A式) 淡青磁(古代) 破	70→20	16世紀後半～末	2尺 22寸	B1-B2	
21	SK021	埋土溜り	陥没土層	土師器 土師器B 灰A(大内A式)			16世紀代	2尺 21寸	D2	浅い溜り
22	SP022	柱穴	陥没土層 (灰・焼土粒多)	土師器 土師器B			16世紀代	2尺 21寸	D2	内照
23	SK023	土坑	黄灰土層	土師器 土師器C・灰A・灰B		61→23	16世紀代	2尺 20寸	D1-D2-E1-E2	横内照土坑
24	SK024	土坑	陥没土層 (砂・砂利混)	中国磁器 漳州窯青花碗 景徳鎮窯内注式加工品(破) 土師器 土師器C・灰A・灰B (近代) 破	瓦製品 平瓦・丸瓦 土製品 中堅土師 石製品 磁石	南無柱穴→24	16世紀末	1尺 16寸	B1-B2・J1-J2	内照か 破の破棄あり
25	SP025	柱穴	陥没土層 (灰・焼土粒多)	土師器 土師器C	焼土	25→30	16世紀後半～末	1尺 17寸	J2	方形 柱盤あり
26	SP026	柱穴	陥没土層 (焼土粒多)	土師器 土師器A・小片 土師器土層片	鉄滓		16世紀代	1尺 18寸	K2-L2	内照
27	SP027	柱穴	陥没土層 (灰・焼土粒多)	土師器 土師器C・灰B	土師器土層土師器片		16世紀後半	1尺 18寸	L2	内照
28	SP028	柱穴	灰・焼土多量物	中国磁器 景徳鎮窯青花碗 土師器 土師器A	土師器土層土師器片 土師器 土師器A	16世紀末	1尺 18寸	K2-L2	柱盤土層に埋土に 埋まる 柱盤内照	
29	SP029	柱穴	陥没土層	土師器 土師器B 灰A(大内A式) 瓦葺土層 深部土師器片	土製品 土製品 7	65→29	16世紀代	1尺 14寸	K3-L4	内照
30	SK030	焼土層	灰・焼土多量	中国磁器 青花入付(大内A式)	土師器 土師器C	25→37→30	16世紀末	1尺	J2→K1→K2→K3-L3-L4	深部0.1m 広範囲に 広がる焼土層
31	SK031	横丸	ブロック土置	中国磁器 磁器系青磁片	土師器 土師器C・灰A	79→31	現代	1尺 12寸	I5	
32	SP032	柱穴	陥没土層	土師器 土師器C・小片			16世紀後半	1尺 12寸	I5-6	横丸形状
33	SK033	横丸	ブロック土置	土師器 土師器A片			現代	1尺 11寸	K7	
34	SK034	土坑	灰褐色砂溜り土	土師器 土師器A	瓦葺土層土師器片	35→34→西側 土坑	16世紀代	1尺 8寸	I9	1→30cmの小破が密 に入る
35	SK035	溝状	陥没土層 (黄褐色土)	土師器 土師器A・物多量	赤土土層	35→34	16世紀代	1尺 8寸	I9	輪はほぼ南北
36	SK036	不明	灰茶土 (大粒灰・焼土粒多)	中国磁器 天目碗 景徳鎮窯地盤 土師器 土師器A・灰B 土師器 土師器A・灰B 土師器 土師器A・灰B	瓦製品 丸瓦 土製品 土師器 土師器 土師器 土師器 土師器	46→36	16世紀後半	1尺 7寸	J11	不定形 土坑か
37	SK037	土坑	陥没土層 (ブロック土置)	中国磁器 景徳鎮窯青花碗 土師器 土師器C・灰A・灰B	石製品 磁石	96→37→30	16世紀後半～末	1尺 15寸	K3-K4	横丸方形
38	SK038	横丸	ブロック土置	石製品 磁石			現代	1尺 6寸	I11	重機の下置
39	SK039	不明	灰褐色砂溜り土 (マングン)	土師器 土師器A		45→39か	16世紀末以降	1尺 6寸	H11-I11	マングン 埋りあり

表2 遺構出土遺物一覧表②

S番号	遺構番号	性別	部位	遺物	切り合い	時代	区域	グリッド	備考
40	SP040	土坑	甕穴掘土 (ブロック掘)	中国陶器 白磁碗片 土師器 土師器A・土師器B (古代土師器) 土師器 土師器A・土師器B (古土師器) 土師器 土師器A・土師器B (古土師器)		16世紀末	1区	5Tr	113-114・113-114
41	SP041	柱穴	甕穴掘土 (特注掘)	瓦葺土器 磁鉢	42-103-441	16世紀末	3区	24Tr	85
42	SP042	柱穴	甕穴掘土 (甕・焼土掘)	土師器A小片	42-441	16世紀末	3区	24Tr	85
43	SP043	土坑	甕穴掘土 (甕・焼土掘)	土師器A小片 古土師器 土師器A小片		16世紀後半	1区	12Tr	15
44	SP044	石組遺構	甕穴掘土	土師器A小片・土師器B 土師器A小片・土師器B 土師器A小片・土師器B 土師器A小片・土師器B	82-44-102	16世紀中～末	1区	10Tr	17
44	SP044	石組遺構	甕穴掘土	土師器A小片・土師器B 土師器A小片・土師器B 土師器A小片・土師器B 土師器A小片・土師器B	82-44-102	16世紀中～末	1区	10Tr	17
45	SP045	土坑	灰色粘土掘	中国陶器 甕系有花磁片 青花小片	39-49-45	16世紀後半～末	1区	6Tr	H10-H11・H10-H11
46	SP046	土坑	甕穴掘土	中国陶器 甕系有花磁片 青花小片	46-36	16世紀後半	1区	7Tr	J11
47	SP047	柱穴	甕穴掘土	土師器A小片		16世紀	1区	2Tr	E13
48	SP048	埋土室	甕穴掘土	土師器A小片		16世紀	1区	4Tr	I13
49	SP049	不明	甕穴掘土 (白色粘土)	中国陶器 甕系有花磁片小片	49-45	16世紀後半	1区	6Tr	H10-H11・H10-H11
50	SP050	不明	甕穴掘土 (甕・焼土掘)	中国陶器 甕系有花磁片 青花小片 土師器A小片・土師器B 土師器A小片・土師器B 土師器A小片・土師器B 土師器A小片・土師器B	50-55	16世紀後半～末	1区	9Tr	J9-K9
51	SP051	不明	甕穴掘土 (甕・焼土掘)	中国陶器 甕系有花磁片 青花小片 土師器A小片・土師器B 土師器A小片・土師器B 土師器A小片・土師器B 土師器A小片・土師器B	51-55	16世紀後半～末	1区	9Tr	K9
52	SP052	土坑	甕穴掘土	中国陶器 甕系有花磁片 青花小片 土師器A小片・土師器B 土師器A小片・土師器B 土師器A小片・土師器B 土師器A小片・土師器B		16世紀後半	1区	11Tr	K7
53	SP053	土坑	甕・焼土掘	中国陶器 甕系有花磁片 青花小片 土師器A小片・土師器B 土師器A小片・土師器B 土師器A小片・土師器B 土師器A小片・土師器B		16世紀	1区	—	E14-F14
54	SP054	柱穴	甕穴掘土 (甕・焼土掘)	中国陶器 甕系有花磁片 青花小片 土師器A小片・土師器B 土師器A小片・土師器B 土師器A小片・土師器B 土師器A小片・土師器B		16世紀末	1区	—	I3
55	SP055	不明	甕穴掘土 (甕・焼土掘)	中国陶器 甕系有花磁片 青花小片 土師器A小片・土師器B 土師器A小片・土師器B 土師器A小片・土師器B 土師器A小片・土師器B	50-51-55	16世紀後半～末	1区	9Tr	H8-K8・J8-K8
56	SP056	土坑	甕穴掘土 (甕・焼土掘)	中国陶器 甕系有花磁片 青花小片 土師器A小片・土師器B 土師器A小片・土師器B 土師器A小片・土師器B 土師器A小片・土師器B		16世紀	1区	11Tr	K7
57	SP057	柱穴	甕穴掘土 (甕・焼土掘)	中国陶器 甕系有花磁片 青花小片 土師器A小片・土師器B 土師器A小片・土師器B 土師器A小片・土師器B 土師器A小片・土師器B		16世紀後半	1区	18Tr	L2
58	SP058	柱穴	甕穴掘土 (甕・焼土掘)	土師器A小片	58-28	16世紀後半～末	1区	18Tr	K2-L2
58	SP058	柱穴	甕穴掘土 (甕・焼土掘)	土師器A小片	58-28	16世紀後半～末	1区	18Tr	K2-L2
59	SP059	柱穴	甕穴掘土	中国陶器 甕系有花磁片	西側柱穴・119-51	16世紀後半	3区	23Tr	B3
60	SP060	不明	褐色硬質じり砂土	土師器A小片		16世紀後半～末	2区	19Tr	G1-G2
60	SP060	不明	褐色硬質じり砂土	土師器A小片		16世紀	2区	19Tr	G1-G2
60	SP060	不明	褐色硬質じり砂土	土師器A小片		16世紀	2区	19Tr	G1-G2
60	SP060	不明	褐色硬質じり砂土	土師器A小片		16世紀	2区	19Tr	G1-G2
61	SP061	不明	褐色硬質じり砂土	土師器A小片	61-23	16世紀	2区	20Tr	F2
62	SP062	溝状	褐色硬質じり砂土	土師器A小片		16世紀	3区	24Tr	B5
63	SP063	柱穴	甕穴掘土 (甕・焼土掘)	土師器A小片		16世紀	1区	14Tr	I4
64	SP064	柱穴	甕穴掘土	中国陶器 甕系有花磁片 青花小片 土師器A小片・土師器B 土師器A小片・土師器B 土師器A小片・土師器B 土師器A小片・土師器B		16世紀後半～末	1区	14Tr	I3
65	SP065	柱穴	甕穴掘土	土師器A小片	65-29	16世紀	1区	14Tr	I4
66	SP066	柱穴	甕穴掘土	土師器A小片	66-46	15世紀後半以前	1区	3Tr	F13
67	SP067	柱穴	甕穴掘土 (甕・焼土掘)	中国陶器 甕系有花磁片 青花小片 土師器A小片・土師器B 土師器A小片・土師器B 土師器A小片・土師器B 土師器A小片・土師器B		16世紀後半～末	3区	26Tr	B9
68	SP068	柱穴	褐色硬質じり砂土	土師器A小片	103-68	16世紀後半～末	3区	24Tr	B5

表3 遺構出土遺物一覧表③

図号	遺構番号	種類	層位	遺物	図付枚数	時代	尺貫	グリッド	備考
69	S069	不明	灰褐色砂利混土	土師器ⅢC×	69→103	16世紀後半～末	3区	24r	B5 土坑か 縦長
70	S070	不明	灰褐色土質土	土師器ⅢA・ⅢB	70→20	16世紀前半	2区	22r	B1-B2 土坑か 方形?
71	S071	土坑	灰褐色土(灰・焼土混)	国産陶器 香粉小片 土師器ⅢA		15世紀前半～後半	2区	21r	D1 方形か 縦横略 縦 (縦横略より) 縦長か 第2層
72	S072	柱穴	暗灰褐色土 (灰・焼土混)	土師器Ⅲ片	72→北側柱穴	16世紀代	2区	20r	E2 円形
73	S073	柱穴	暗灰褐色土 (灰・焼土混)	土師器Ⅲ器ⅢC×		16世紀代	2区	20r	E2 円形
74	S074	柱穴	暗灰褐色土	土師器Ⅲ器ⅢC・ⅢD		16世紀後半～末	1区	16r	I2 円形
75	S075	柱穴	暗灰褐色土	土師器Ⅲ器ⅢC		16世紀後半～末	1区	16r	I2 方形
76	S076	柱穴	暗灰褐色土	土師器Ⅲ器ⅢC・ⅢA		16世紀前半	1区	18r	I2 円形か
77	S077	柱穴	暗灰褐色土 (灰・焼土混)	土師器Ⅲ器ⅢB片		16世紀代	1区	14r	I3 円形
78	S078	柱穴	暗灰褐色土			16世紀代	1区	14r	I3 横円形
79	S079	柱穴	暗灰褐色土	土師器Ⅲ器ⅢC・ⅢA・ⅢB部片	79→31	16世紀代	1区	12r	I5 円形
80	S080	土坑	灰褐色砂利混土	土師器Ⅲ器Ⅲ土器		16世紀代	1区	—	I2 横円形 横置
81	S081	柱穴	暗灰褐色土 (灰・焼土混)	土師器Ⅲ器ⅢC×		16世紀代	1区	14r	I3 円形
82	S082	柱穴	暗灰褐色土 (黄褐色ブロック土)	瓦葺土器片	82→44	16世紀前半	1区	10r	I7 円形
83	S083	柱穴	暗灰褐色土 (黄褐色ブロック土)	土師器Ⅲ小片		16世紀代か	1区	8r	I9 円形
84	S084	溝状	灰褐色砂利混土	土師器Ⅲ小片		15世紀後半以前	2区	21r	D2 幅40・37・W 第2層
85	S085	土坑	灰褐色土 (黄褐色ブロック土)	土師器ⅢA・ⅢB(古銅系) 瓦葺土器片	85→86→85	14世紀後半～15世紀後半	1区	13r	K5 S086と同一(埋土の 跡) 第2層
86	S086	土坑	暗灰褐色土 (灰・焼土混)	土師器Ⅲ器ⅢA・ⅢA	86→86→85	14世紀後半～15世紀後半	1区	13r	K5-K6 黄丸の形か S085と 同一 第2層
87	S087	土坑	灰褐色土 (黄褐色ブロック土)	国産陶器 香粉(黄銅) 土師器Ⅲ器ⅢC・ⅢA	87→86→85	15世紀前半以前	1区	13r	K5-K6 円形か 第2層
88	S088	柱穴	灰褐色砂利混土	土師器ⅢA		15世紀前半以前	1区	37r	F13 円形 第2層
89	S089	土坑か	黄灰褐色土 (ブロック土)	土師器Ⅲ器ⅢA 土師器Ⅲ器ⅢC	89→51	15世紀後半以前	1区	9r	K9 第2層
90	S090	溝状	灰褐色粘質土		90→豊地	15世紀後半以前	3区	24r	B5 最上層幅9・21r・W 第2層
91	S091	柱穴	暗灰褐色土	土師器Ⅲ器ⅢA小片		15世紀後半以前	1区	9r	K9 円形 縦入
92	S092	溝状	黄褐色ブロック土	土師器Ⅲ器ⅢA・ⅢA		15世紀前半以前	2区	19r	G2 上位置 第2層 W- 33・41
92	S092	溝状	灰褐色土	国産陶器 香粉(黄銅) 土師器ⅢA		15世紀後半以前	2区	19r	G2 中位置
92	S092	溝状	暗灰褐色土 土師器Ⅲ器ⅢA 土師器Ⅲ器ⅢC		92→豊地	15世紀後半以前	2区	19r	G2 下位置
93	S093	柱穴	暗灰褐色土 (灰・焼土混)	土師器Ⅲ器ⅢA・ⅢB部片		15世紀後半以前	3区	24r	B5 円形 縦入
94	S094	不明	灰褐色土	中国産磁器 黄銅系黄銅 土師器Ⅲ器ⅢC・ⅢA小片		15世紀後半	1区	17r	D14-E14 上位置 第2層 磁器は 黄銅系黄銅系黄銅系 黄銅系黄銅系黄銅系
94	S094	不明	灰褐色土	国産陶器 香粉(黄銅・黄銅系) 土師器Ⅲ器ⅢA・ⅢA		15世紀後半	1区	17r	D14-E14 下位置 縦入
95	S095	井戸か	灰褐色土・暗灰褐色土	土師器Ⅲ器ⅢA		15世紀前半以前	1区	47r	I13 上・中位置 第2層
95	S095	井戸か	灰褐色土	国産陶器 香粉(黄銅・黄銅系)		15世紀前半以前	1区	47r	I13 下位置 未発掘
96	S096	不明	暗灰土(ブロック土)		96→37	15世紀後半以前	1区	15r	K3-K4 第2層
97	S097	不明	黄灰褐色土 (大粒ブロック土)		98-101→97	16世紀代	2-3区	—	B2-B3 井戸か 横置
98	S098	部分豊地	黄褐色砂利混土・灰褐色砂利混土		98→97	16世紀代	2-3区	—	B1-B2-C1-C2 横置
99	S099	土坑	灰・焼土多量			16世紀代	2区	—	E1-E2-F1-F2 横置 不規則(切り込み 痕跡あり)
100	S100	遺跡状	砂・砂利層			16世紀後半～末	2-3区	—	B5-B6-F2-G1-G2-H1-H2 横置 出土上の遺跡 幅40 40r・W
101	S101	土坑	灰・焼土多量		101→97	16世紀代	3区	—	B3 横円形か
102	S102	横土層	灰・焼土多量		44→102	16世紀末	1区	—	H7-H8-I7-I8-J7-J8 横置
103	S103	溝状	黄灰土		69→103→68-41	16世紀後半	3区	24r	B5 幅40・40r・W

※トーン部分は報告書掲載範囲

表4 陶磁器・土器類観察表①

調査番号	遺構番号	種別	形状	寸法(mm)			胎土	色(外/内)		釉薬		備考	R番号	
				口径	底径	高さ		外面	内面	外面	内面			
第1図-01	S0009	土師器	皿C	(18.0)	2.4+α	-	肉肉・長石	淡黄色	にぶい黄褐色	ヨコナデ・指 オサエ・ナデ	ヨコナデ		R-001	
第1図-02	S0024	土師器	皿C	(13.2)	2.9+α	-	肉肉・長石	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	ヨコナデ・指 オサエ・ナデ	ヨコナデ		R-004	
第1図-03	S0024	土師器	皿C	(12.4)	1.9+α	-	肉肉・長石・ 石炭	淡黄色	淡黄色	ヨコナデ・指 オサエ・ナデ	ヨコナデ		R-005	
第1図-04	S0024	土師器	円形	(9.0)	2.1	(6.2)	肉肉・長石・ 赤色粒	淡褐色	淡褐色	回転ナデ	回転ナデ	底部糸切り	R-001	
第1図-07	S0024	漆器(黒木) 花	皿	-	2.4+α	-	-	光沢あり や や青味がった 透明釉	淡灰色を呈し 灰白入る や や粗粒	無釉	無釉	書付焼割	R-008	
第1図-08	S0024	土製品	土器	縦5.2	横3.1	孔径1.3	肉肉・長石	灰白色	-	ケズリ・ナデ	-	44.9g	R-007	
第1図-09	S0024	灰土陶器	浅鉢 蓋子 状加工品	縦3.6	横3.6	厚1.2	肉肉を呈し粗 粒の白色粒ま じり	黒褐色	赤褐色	ナデ	ナデ	底部焼割片を加工 21.9g	R-006	
第1図-10	S0037	土師器	皿C	(12.5)	2.2+α	-	長石	灰褐色	灰褐色	ヨコナデ・指 オサエ・ナデ	ヨコナデ	河野a類	R-001	
第1図-11	S0037	土師器	大皿C	-	2.6+α	-	肉肉・長石	灰褐色	灰褐色	ヨコナデ・指 オサエ・ナデ	ヨコナデ		R-002	
第1図-12	S0040	土師器	皿C	(11.6)	4.0+α	-	肉肉・長石	淡黄色	淡黄色	ヨコナデ・指 オサエ・ナデ	ヨコナデ・ナ デ		R-001	
第1図-13	S0040	土師器	円形	-	1.3+α	(9.0)	肉肉・長石・ 石炭	褐色	褐色	ヨコナデ	横減		R-004	
第1図-14	S0040	土師器土器	鉢B	-	3.0+α	-	肉肉・長石・ 赤色粒・石炭	褐色	褐色	ヨコナデ	工具ナデ・ナ デ		R-003	
第1図-15	S0040	灰土陶器	深鉢・美濃 系 皿	-	1.0+α	(7.0)	灰白色を呈し 白色粒まじり	灰白色のある 褐色の鉄粒	-	無釉	無釉	見込焼割	R-002	
第1図-16	S0045	青花	小鉢	-	1.1+α	(2.2)	-	光沢ある透明 釉 高台付近 では気泡入る	無釉	無釉	書付無釉		R-001	
第1図-17	S0046	土師器	円形×C	(12.0)	2.5	(6.5)	長石	淡黄色	淡黄色	回転ナデ	回転ナデ	胎土も皿Cと同一 横 底部糸切り	R-001	
第1図-18	S0046	青白磁	不明	-	1.5+α	-	-	青白色で気泡 が多く入る	灰白色を呈し 微細な黒色粒 まじり	白結晶性一 層	無釉		R-002	
第1図-20	S0080	土師器	模範土器	-	6.3+α	(12.5)	肉肉・長石・ 石炭	褐色	褐色	回転ナデ	工具ナデ		R-001	
第1図-21	S0060(褐色陶 器)土師器	皿C	-	2.1+α	-	長石	淡褐色	淡褐色	ヨコナデ・ナ デ	ヨコナデ	河野b類	R-001		
第1図-22	S0060(灰砂 質土)	瓦質土器	鉢C	-	3.7+α	-	長石・白色粒	灰色	灰色	ヨコナデ	ヨコナデ		R-001	
第1図-23	S0060(褐色陶 器)土師器	白磁	皿	-	1.0+α	-	-	光沢あり 黄 らうい黄色	灰白色を呈し 微細な黒色粒 まじり	無釉	無釉	森田分限器 高台付 蓋付	R-002	
第1図-24	S0060(灰砂 質土)土師器	利直じり土	鉢C	-	3.0+α	-	肉肉・長石・ 石炭	にぶい褐色	にぶい褐色	工具ナデ	ヨコハナ目・ ナデ		R-001	
第1図-25	S0060(灰砂 質土)土師器	利直じり土	白磁	皿	-	1.3+α	(6.6)	-	灰白色で黄 らうい黄色	灰白色を呈し 微細な黒色粒 まじり	無釉	無釉	森田分限器 高台付 蓋付	R-002
第1図-26	S0060(灰砂 質土)土師器	利直じり土	白磁	小鉢	-	2.3+α	-	-	白色で灰 入り 薄く均 一に施釉	灰白色を呈し 微細な黒色粒 まじり	無釉	無釉	森田分限器 高台付 蓋付	R-003
第1図-27	S0044	土師器	皿C	(17.0)	2.4+α	-	肉肉・長石・ 石炭	にぶい褐色	にぶい褐色	ヨコナデ・指 オサエ・ナデ	ヨコナデ		R-001	
第1図-28	S0044	土師器	皿C	-	2.2+α	-	長石	にぶい褐色	にぶい褐色	ヨコナデ・指 オサエ・ナデ	ヨコナデ	河野b類	R-003	
第1図-29	S0044	土師器	皿C	(10.8)	2.2+α	-	肉肉・長石	淡黄色	淡黄色	ヨコナデ・指 オサエ・ナデ	ヨコナデ	河野a類	R-002	
第1図-30	S0044	土師器	皿C	(14.0)	2.5+α	-	肉肉・長石	灰褐色	灰褐色	ヨコナデ・指 オサエ・ナデ	ヨコナデ	河野a類	R-007	
第1図-31	S0044	土師器	皿C	(12.5)	2.1+α	-	肉肉・長石	にぶい褐色	灰褐色	ヨコナデ・指 オサエ・ナデ	ヨコナデ	河野a類	R-013	
第1図-32	S0044	土師器	円形A	-	2.7+α	-	肉肉・長石	黒褐色	黒褐色	回転ナデ	回転ナデ		R-004	
第1図-33	S0044	土師器	小皿A	(8.0)	1.3	(6.2)	肉肉・長石	淡褐色	淡褐色	回転ナデ	回転ナデ		R-006	
第1図-34	S0044	土師器	円形	-	1.4+α	(12.0)	肉肉・長石	褐色	褐色	回転ナデ	横減		R-005	
第1図-35	S0044	瓦質土器	鉢	-	3.5+α	-	肉肉・長石	暗灰色	暗灰色	ミガキ・ケズ リ	ミガキ・ナ デ		R-010	
第1図-36	S0044	瓦質土器	深鉢	最大径(9.2)	7.2+α	-	長石・石炭	灰色	灰色	ヨコハナ目・ 地味焼・ナデ	無釉・ナデ	外面焼付着	R-008	
第1図-37	S0044	瓦質土器	鉢	-	2.9+α	(13.0)	肉肉・長石	暗灰色	灰色	ヨコナデ	ヨコナデ		R-009	
第1図-38	S0044	瓦質土器	不明	縦7.1+α	横6.0+α	厚2.8	肉肉・長石	暗褐色	暗褐色	ケズリ・ナデ	ケズリ・ナデ		R-011	
第1図-39	S0044	中国陶器	香炉	-	6.4+α	-	-	灰褐色を呈し 微細な白色粒 まじり	-	ヨコナデ一 層	ヨコナデ	内面に釉が覆れている	R-012	
第1図-40	S0044(黒土)	土師器	皿C	-	2.0+α	-	肉肉・長石	淡黄色	にぶい褐色	ヨコナデ・指 オサエ・ナデ	ヨコナデ		R-001	
第1図-41	S0050	土師器	皿C	(12.8)	2.5+α	-	肉肉・長石	褐色	褐色	ヨコナデ・指 オサエ・ナデ	ヨコナデ	河野a類	R-005	
第1図-42	S0050	土師器	皿C	-	2.1+α	-	肉肉・長石	淡黄色	淡黄色	ヨコナデ・指 オサエ・ナデ	ヨコナデ	河野a類	R-006	

表5 陶磁器・土器類観察表②

調査番号	品目番号	種別	器種	口径	高さ	底径	重量(g)	出土	色調(外側)	色調(内側)	文様	備考	調査	備考
第2104-43	SX050	土師器	ⅢC 灯明鉢	8.9	2.2	-	-	角筒・長石	淡黄褐色	淡黄褐色	ヨコナデ・指 オサエ・ナデ	ヨコナデ	内外面に保付着 内面 (10) 字ナデ	R-001
第2104-44	SX050	土師器	Ⅲa5	-	1.5+a	-	-	角筒・長石・ 石罫	淡黄褐色	淡黄褐色	回転ナデ・ミ 方巾	回転ナデ	-	R-004
第2104-45	SX050	土師器	Ⅲa5	-	2.6+a	-	-	長石	灰色	灰色	ヨコナデ	ヨコナデ	-	R-003
第2104-46	SX050	土師器	Ⅲa5	-	3.4+a	-	-	角筒・長石	黄灰色	黄灰色	ヨコナデ	ヨコナデ	-	R-002
第2104-49	SX050	土師器	Ⅲa5	(11.2)	3.2+a	-	-	-	緑色で光沢あり 気泡入る	灰白色を呈し 褐色な黒色粒 混じり	縦線・横線・文・ 無	無	土山分館付録	R-011
第2104-50	SX050	土師器	Ⅲa5	-	2.8+a	-	-	-	灰白色を呈し 褐色な黒色粒 混じり	灰白色を呈し 褐色な黒色粒 混じり	無	無	土山分館付録	R-009
第2104-51	SX050	土師器	Ⅲa5	(10.8)	2.6+a	-	-	-	灰白色を呈し 褐色な黒色粒 混じり	灰白色を呈し 褐色な黒色粒 混じり	無	無	-	R-010
第2104-52	SX050	土師器	Ⅲa5	-	1.0+a	(5.0)	-	-	灰白色を呈し 褐色な黒色粒 混じり	灰白色を呈し 褐色な黒色粒 混じり	無	無	土山分館付録	R-008
第2104-53	SX050	土師器	Ⅲa5	最大径(20.8)	6.7+a	-	-	-	灰白色を呈し 褐色な黒色粒 混じり	灰白色を呈し 褐色な黒色粒 混じり	無	無	-	R-007
第2204-01	SX051	土師器	ⅢC	(13.2)	2.8+a	-	-	角筒・長石・ 石罫	淡黄褐色	淡黄褐色	ヨコナデ・指 オサエ・ナデ	ヨコナデ	-	R-001
第2204-02	SX051	土師器	ⅢC	(12.6)	2.3	-	-	角筒・長石	淡黄褐色	淡黄褐色	ヨコナデ・指 オサエ・ナデ	ヨコナデ・一 方角ナデ	-	R-004
第2204-03	SX051	土師器	ⅢC	(13.7)	2.6+a	-	-	角筒・長石	淡黄褐色	淡黄褐色	ヨコナデ・指 オサエ・ナデ	ヨコナデ	-	R-006
第2204-04	SX051	土師器	ⅢC	-	2.3+a	-	-	角筒・長石	淡黄褐色	淡黄褐色	ヨコナデ・指 オサエ・ナデ	ヨコナデ	-	R-007
第2204-05	SX051	土師器	ⅢC	(11.0)	3.7	(7.2)	-	角筒・長石	淡黄褐色	淡黄褐色	ヨコナデ・指 オサエ・ナデ	ヨコナデ・ナ デ	-	R-005
第2204-06	SX051	土師器	ⅢC	-	2.1	-	-	角筒・長石	淡黄褐色	淡黄褐色	ヨコナデ	ヨコナデ	内外面に保付着	R-008
第2204-07	SX051	土師器	ⅢC	-	4.5+a	-	-	角筒・長石	淡黄褐色	淡黄褐色	ヨコナデ	しぼり蓋	土山分館	R-009
第2204-08	SX051	土師器	ⅢC	-	2.6+a	-	-	角筒・長石	淡黄褐色	淡黄褐色	ヨコナデ	ヨコナデ	-	R-014
第2204-10	SX051	土師器	ⅢC	-	1.9+a	-	-	-	緑色で光沢あり	灰白色を呈し 褐色な黒色粒 混じり	無	無	-	R-010
第2204-11	SX051	土師器	ⅢC	(10.1)	4.8	(4.3)	-	-	緑色で光沢あり	灰白色を呈し 褐色な黒色粒 混じり	無	無	土山分館付録	R-013
第2204-12	SX051	土師器	ⅢC	-	3.5+a	-	-	角筒・長石	淡黄褐色	淡黄褐色	ヨコナデ	ヨコナデ	-	R-016
第2204-13	SX051	土師器	ⅢC	-	7.1+a	-	-	角筒・長石	淡黄褐色	淡黄褐色	ヨコナデ	ヨコナデ	土山分館付録	R-015
第2204-14	SX051	土師器	ⅢC	-	7.4+a	-	-	角筒・長石	淡黄褐色	淡黄褐色	ヨコナデ	ヨコナデ	土山分館付録	R-002
第2204-17	SX055	土師器	ⅢC	(15.8)	2.5	-	-	角筒・長石	淡黄褐色	淡黄褐色	ヨコナデ・指 オサエ・ナデ	ヨコナデ・一 方角ナデ	-	R-002
第2204-18	SX055	土師器	ⅢC	(15.4)	2.3+a	-	-	角筒・長石	淡黄褐色	淡黄褐色	ヨコナデ・指 オサエ・ナデ	ヨコナデ	-	R-010
第2204-19	SX055	土師器	ⅢC	(8.2)	1.9+a	-	-	角筒・長石	淡黄褐色	淡黄褐色	ヨコナデ・指 オサエ・ナデ	ヨコナデ	-	R-011
第2204-20	SX055	土師器	ⅢC	(10.2)	2.4+a	-	-	角筒・長石	淡黄褐色	淡黄褐色	ヨコナデ・指 オサエ・ナデ	ヨコナデ	-	R-012
第2204-21	SX055	土師器	ⅢC	-	1.6+a	(10.4)	-	角筒・長石・ 石罫	淡黄褐色	淡黄褐色	ヨコナデ	ヨコナデ	内外面に保付着 灯明鉢に 転用付 底部布切り・板 状底	R-009
第2204-22	SX055	土師器	ⅢC	-	3.8+a	-	-	角筒・長石	淡黄褐色	淡黄褐色	ヨコナデ	ヨコナデ	口縁部付近に自然付着	R-013
第2204-24	SX055	土師器	ⅢC	-	2.4+a	6.2	-	-	緑色で光沢あり 気泡入る	灰白色を呈し 褐色な黒色粒 混じり	無	無	土山分館付録	R-008
第2204-25	SX055	土師器	ⅢC	-	6.0+a	-	-	角筒・長石	淡黄褐色	淡黄褐色	ヨコナデ	ヨコナデ	土山分館付録	R-004
第2204-26	SX055	土師器	ⅢC	(36.2)	5.0+a	-	-	角筒・長石	淡黄褐色	淡黄褐色	ヨコナデ	ヨコナデ	土山分館付録	R-005
第2204-27	SX055	土師器	ⅢC	(33.8)	7.9+a	-	-	角筒・長石	淡黄褐色	淡黄褐色	ヨコナデ	ヨコナデ	土山分館付録	R-006
第2204-28	SX055	土師器	ⅢC	(60.2)	23.5+a	-	-	角筒・長石	淡黄褐色	淡黄褐色	ヨコナデ	ヨコナデ	土山分館付録	R-007
第2204-01	SX070	土師器	ⅢC	小皿	10.0	2.1	5.0	角筒・長石	淡黄褐色	淡黄褐色	ヨコナデ	工具ナデ	土山分館付録	R-001
第2204-02	SX030	土師器	ⅢC	(12.8)	2.4+a	-	-	角筒・長石	淡黄褐色	淡黄褐色	ヨコナデ・指 オサエ・ナデ	ヨコナデ	-	R-001

表6 陶磁器・土器類観察表③

調査年度	遺跡番号	種別	形状	直径(cm)	口径	高さ	底径	胎土	色(外)内面	色(外)内面	文様	内面	備考	写真	備考
第23回-03	S3030	青磁	花入?	-	0.9+α	-	-	淡緑色で光沢あり	灰白色を呈しやや密	無施	無施	外面に割落痕 六角?	R-002		
第23回-04	SP028	唐津焼系青花	皿	-	1.9+α	7.2	-	元沢ある透明釉 表面は滑らか	白色を呈し薄緑な茶色粒点入り	無施	無施	小野分堀交付品群 焼込「長崎窯」 裏面に「福」 裏付焼跡	R-001		
第23回-05	SP054	唐津焼系青花	皿	(9.4)	2.7	5.0	-	元沢あり 灰濁入る 表面は滑らか	白色を呈し薄緑な茶色粒点入り	無施	無施	小野分堀交付品群	R-001		
第23回-06	SP054	国産陶器	横割 圓鉢	-	5.8+α	(12.0)	-	黄灰色を呈し滑らかな白色粒点入り	赤褐色	茶褐色	回転ナデ	回転ナデ	東国陶器店送付 期 文書 裏面	R-002	
第23回-07	S3020	土師器	皿C	-	1.5+α	-	-	肉内・長石	淡黄色	淡黄色	ヨコナデ	ヨコナデ	河野M様	R-001	
第23回-08	S3020	土師器	皿C	-	1.3+α	-	-	肉内・長石	淡黄色	淡黄色	ヨコナデ	ヨコナデ	河野M様	R-002	
第23回-09	S3020	土師器	円形	-	1.8+α	-	-	肉内・長石	淡黄色	淡黄色	回転ナデ	工具ナデ	R-003		
第23回-10	S3020	土師器	皿	-	1.3+α	-	-	長石	灰白色	灰白色	ヨコナデ	ヨコナデ	白色系(大内系)	R-004	
第23回-11	S3036	土師器	円形	-	1.5+α	-	-	肉内・長石	淡青色	淡青色	回転ナデ	回転ナデ	R-001		
第23回-12	S3036	土師器土器	鉢B1	-	7.3+α	-	-	長石・金雲母	短灰色	灰白色	タテハケ紐・ヨコナデ	ヨコハケ紐・ナデ	外面保存書	R-002	
第23回-13	S3036	中国陶器	天目茶碗	-	4.0+α	-	-	短灰色を呈し白色粒点入り 灰濁入る	内面は均一に施釉	-	底部下平は無施	無施	R-003		
第23回-14	S3036	国産陶器	短茶碗	-	2.0+α	-	-	長石	灰白色	灰白色	ヨコナデ	ヨコナデ	R-004		
第23回-15	S3061	土師器	円形	-	1.7+α	(8.0)	-	肉内・長石・赤色粒	短灰色	短灰色	回転ナデ	回転ナデ・一方向ナデ	R-001		
第23回-17	247人(力)① 赤良系土	土師器	円形	(11.2)	2.8	(9.5)	-	肉内・金雲母	短灰色	短灰色	回転ナデ	回転ナデ	遺部和切リ	R-001	
第23回-18	247人(力)① 赤良系土	土師器土器	鉢A	-	3.7+α	-	-	肉内・長石・石炭	淡黄色	短灰色	棒目タタキ	ヨコハケ	R-002		
第23回-19	SP006	土師器	皿C	(8.4)	2.3	-	-	肉内・長石・石炭	淡黄色	に灰・黄褐色	ヨコナデ・指オサエ・ナデ	ヨコナデ	R-001		
第23回-21	SP006焼土器 じり土	土師器	皿C	(12.0)	2.2	-	-	長石・肉内	短灰色	短灰色	ヨコナデ・指オサエ・ナデ	ヨコナデ	河野M様	R-001	
第23回-22	SP074	土師器	皿C	(17.6)	2.7+α	-	-	肉内・長石	に灰・黄褐色	に灰・黄褐色	ヨコナデ・指オサエ・ナデ	ヨコナデ	R-001		
第23回-23	177(灰系土)	灰系土器	大鉢	-	3.6+α	-	-	肉内・長石	短灰色	短灰色	ナデ	ナデ	輪花型大鉢	R-001	
第23回-24	47(灰系土)	土師器土器	鉢C	-	1.8+α	-	-	肉内・長石	灰白色	灰白色	ヨコナデ	ヨコナデ	R-002		
第23回-25	47(灰系土)	土師器土器	鉢B1	(20.0)	3.5+α	-	-	肉内・長石	灰白色	灰白色	ヨコナデ	ヨコナデ	R-003		
第23回-26	47(灰系土)	青磁	皿	-	1.9+α	-	-	-	緑色で釉は薄く均一	灰色で密	遺部文・無施	無施	R-004		
第23回-27	47(灰系土)	国産陶器	横割・茶碗 茶碗	-	3.7+α	-	-	黄色粒	灰褐色	灰褐色	ヨコナデ	ヨコナデ	R-001		
第23回-28	67(灰系土)	土師器	円形	-	0.8+α	-	-	肉内・石炭・長石	淡黄色	淡黄色	新切り	回転ナデ・ヨコナデ	遺部に焼成前穿孔 孔径 0.3cm 遺部和切リ	R-001	
第23回-29	67(灰系土)	土師器	円形X8	-	1.7+α	(7.2)	-	肉内・長石・石炭	茶褐色	茶褐色	指オサエ	ナデ	遺部和切リ	R-002	
第23回-30	77(灰系土)	中国陶器	盃か	-	8.5+α	-	-	短灰色を呈し滑らかな茶色粒点入り 白色粒点が多数に混じる やや密	灰褐色	灰褐色	ヨコナデ	無施・ヨコナデ	遺部和切リ	R-001	
第23回-31	87(灰系土)	土師器	円形	-	3.5+α	-	-	肉内・長石	淡黄色	淡黄色	ヨコナデ	ヨコナデ	R-002		
第23回-32	87(灰系土)	茶色土器	鉢A類	-	1.2+α	(7.0)	-	肉内・長石	短灰色	茶色	ヨコナデ	ミガキか	R-004		
第23回-33	87(灰系土)	土師器土器	鉢B1	-	3.8+α	-	-	肉内・長石・石炭	淡黄色	淡黄色	タテハケ紐・ヨコナデ	ヨコハケ紐	R-005		
第23回-34	87(灰系土)	土師器土器	盃?	-	7.2+α	-	-	長石・石炭	灰褐色	灰褐色	平打・矢切タタキ	あて具用ナデ 滑し	R-001		
第23回-35	87(灰系土)	国産陶器	横割 圓鉢	-	5.6+α	-	-	黄褐色・白色 点状	灰褐色	茶褐色	ヨコナデ	ヨコナデ	R-003		
第24回-01	97(灰系土)	土師器	円形	(11.6)	3.3	(9.8)	-	肉内・長石・赤色粒	灰褐色	灰褐色	回転ナデ	回転ナデ・ナデ	遺部和切リ	R-001	
第24回-02	117(灰系土)	土師器土器	鉢B1	-	4.5+α	-	-	肉内・長石	短灰色	灰褐色	ヨコナデ・磨減	ヨコハケ紐・ナデ	R-001		
第24回-03	177(灰系土)	白磁	皿	(15.0)	3.6+α	-	-	灰白色を帯びた白色 釉表面に灰濁入る 元沢あり	灰白色の白色を呈する 短灰色	無施	無施	太宰の白磁焼付部	R-001		
第24回-04	197(灰系土)	土師器	円形	-	1.2+α	(7.6)	-	肉内・長石・石炭	茶褐色	茶褐色	磨減 ミガキか	磨減	R-003		
第24回-05	197(灰系土)	土師器土器	鉢	-	3.3+α	-	-	肉内・長石	灰白色	灰白色	ヨコナデ	ヨコハケ紐・ナデ	R-004		
第24回-06	197(灰系土)	焼文土器	深鉢	-	5.6+α	-	-	肉内・長石・石炭	灰褐色	灰褐色	磨減	磨減	ローリングを受け釉表面は磨減	R-001	
第24回-07	197(灰系土)	土師器?	盃?	(17.0)	6.5+α	胴部径(10.8)	-	肉内・長石・石炭・金雲母	短灰色	短灰色	磨減	磨減	磨減不明 ローリングを受け釉表面は磨減	R-002	
第24回-08	SE095(灰系土・短灰系土)	土師器	円形	(12.2)	4.1	(8.8)	-	肉内・長石・金雲母・赤色粒	短灰色	短灰色	回転ナデ	回転ナデ	遺部和切リ	R-001	
第24回-09	SE095(灰系土・短灰系土)	土師器	円形	-	3.2+α	-	-	肉内・長石・金雲母・赤色粒	短灰色	短灰色	回転ナデ	回転ナデ	R-002		

表7 陶磁器・土器類観察表④

調査番号	遺構番号	種別	形状	寸法	重量(g)	特徴	土	色調(外側)	色調(内側)	文様	備考	備考	
				上径	高さ	底径		外側	内側				
第2402-10	50095灰土・埴土類出土	土師器	杯A	-	2.6±0	-	角閃・長石・金雲母・赤色粒	褐色系	褐色系	回転ナデ	回転ナデ	R-003	
第2402-11	50095灰土・埴土類出土	国産陶器	瀬戸・美濃系 煎豆	-	1.6±0	(6.7)	灰黄色を呈し、緑褐色の赤色粒を混じり	灰白～灰緑色	-	施釉	椅子目縁に沈着	R-001	
第2402-12	50071	土師器	杯A (12.0)	3.6	(8.2)	-	角閃・長石・石炭・赤色粒	褐色系	褐色系	回転ナデ	回転ナデ・ナデ	R-002	
第2402-13	50071	瓦葺土器	火鉢 (32.0)	8.1±0	-	-	角閃・長石・石炭	褐色系	褐色系	ケズリ・ヨコナデ	ケズリ・ヨコナデ	R-001	
第2402-14	50085	土師器	杯A (12.0)	2.2±0	-	-	角閃・長石・赤色粒	淡褐色系	淡褐色系	回転ナデ	回転ナデ	R-001	
第2402-15	50085	土師器	杯A (12.0)	3.2±0	-	-	長石・石炭	淡褐色系	淡褐色系	回転ナデ	回転ナデ	R-002	
第2402-16	50085	土師器	杯A (10.0)	2.0±0	-	-	長石・赤色粒	淡褐色系	淡褐色系	回転ナデ	回転ナデ	R-004	
第2402-17	50085	土師器	杯A	-	1.4±0	(7.0)	角閃・長石	黒灰色	黒灰色	回転ナデ	回転ナデ・ナデ	R-003	
第2402-18	50085	土師器	煎豆 (11.0)	2.6±0	-	-	長石	灰白色	灰白色	回転ナデ	回転ナデ	R-005	
第2402-19	50085	瓦葺土器	鉢	-	3.0±0	-	石炭・長石	黒灰色	黒灰色	椅子目タタキ	ハケ目	R-006	
第2402-20	50085	瓦葺土器	鉢	-	5.3±0	-	石炭・長石	黒灰色	黒灰色	椅子目タタキ	ハケ目	R-007	
第2402-21	50086	土師器	杯A (14.0)	2.7±0	-	-	角閃・長石・石炭	黒灰色	淡褐色系	回転ナデ	回転ナデ	R-002	
第2402-22	50086	土師器	杯A (12.0)	2.4±0	-	-	金雲母・長石・赤色粒	淡褐色系	淡褐色系	回転ナデ	回転ナデ	R-003	
第2402-23	50086	土師器	杯A	-	2.3±0	-	角閃・長石	淡灰黄色	淡灰黄色	回転ナデ	回転ナデ	R-004	
第2402-24	50086	土師器	小皿A (9.0)	1.5	(8.4)	-	角閃・長石・赤色粒	淡褐色系	淡褐色系	回転ナデ	回転ナデ	R-001	
第2402-25	50087	土師器	杯A	-	1.6±0	(10.0)	角閃・長石	にぶい・褐色	にぶい・褐色	回転ナデ	回転ナデ・一方向ナデ	R-003	
第2402-26	50087	土師器	小皿A (7.2)	1.2	(6.2)	-	角閃・長石・赤色粒	にぶい・褐色	にぶい・褐色	回転ナデ	回転ナデ	R-002	
第2402-27	50087	土師器	小皿A (8.0)	1.5	(6.8)	-	長石・赤色粒	淡褐色系	淡褐色系	回転ナデ	回転ナデ	R-004	
第2402-28	50087	土師器	小皿A	-	1.4	-	角閃・長石・赤色粒	褐色系	褐色系	回転ナデ	回転ナデ	R-001	
第2402-29	50087	土師器	鉢B1 (31.0)	7.7±0	-	-	角閃・長石	灰褐色	灰褐色	指サエ・ヨコナデ	ヨコハケ目・ヨコナデ	R-005	
第2402-30	1975埴土類出土物	土師器	杯B	-	1.4±0	-	長石・金雲母	褐色系	褐色系	回転ナデ	工具ナデ	R-001	
第2402-31	1975埴土類出土物	織文土器	浅鉢	-	1.9±0	-	角閃・長石・赤色粒	淡茶褐色	黒灰色	ミガキ	ミガキ	R-001	
第2402-32	1975埴土類出土物	土師器	小皿A (8.4)	1.3	(7.2)	-	長石	淡褐色系	淡褐色系	回転ナデ	回転ナデ	R-001	
第2402-33	50092黄緑ブロック泥じり	土師器	杯A (11.2)	2.9±0	-	-	角閃・長石・金雲母	淡灰黄色	淡灰黄色	回転ナデ	回転ナデ	R-002	
第2402-34	50092黄緑ブロック泥じり	土師器	小皿A	-	1.1	-	角閃・長石	淡褐色系	淡褐色系	回転ナデ	回転ナデ	R-001	
第2402-35	500923R埴土類	土師器	杯A	-	3.2±0	-	角閃・長石・赤色粒	淡褐色系	淡褐色系	回転ナデ	回転ナデ	R-002	
第2402-37	500923R埴土類	土師器	杯A	-	3.1±0	-	角閃・長石・赤色粒	淡褐色系	淡褐色系	回転ナデ	回転ナデ	R-003	
第2402-38	500923R埴土類	土師器	鉢	-	5.1±0	-	角閃・長石	淡褐色系	淡褐色系	ヨコハケ目・ヨコナデ	ヨコハケ目・ヨコナデ	R-004	
第2402-39	500923R埴土類	国産陶器	煎豆 (26.4)	5.5±0	-	-	石炭・長石・白色粒	褐色系	褐色系	タタキ・ヨコナデ	ヨコナデ	R-001	
第2402-40	500923R埴土類	土師器	杯A (10.0)	2.9	(8.2)	-	角閃・長石	にぶい・褐色	褐色系	回転ナデ	回転ナデ	R-001	
第2402-41	500923R埴土類	土師器	鉢B1	-	2.9±0	-	角閃・長石・石炭	褐色系	褐色系	指サエ・ナデ・ヨコナデ	ヨコナデ・ヨコナデ	R-002	
第2402-42	50094灰土・土師器	煎豆C (14.0)	1.8±0	-	-	-	角閃・長石・金雲母	淡褐色系	淡褐色系	ヨコナデ・指サエ・ナデ	ヨコナデ	R-001	
第2402-43	50094灰土・土師器	小皿B (7.0)	1.3	(6.2)	-	-	角閃・長石・赤色粒	淡褐色系	淡褐色系	回転ナデ	回転ナデ	R-002	
第2402-44	50094灰土・土師器	鉢B1	-	2.4±0	-	-	石炭・長石	灰白色	灰白色	タタキ・ヨコナデ	ヨコハケ目	R-003	
第2402-45	50094灰土・土師器	煎豆系青磁焼	煎豆	-	3.1±0	-	-	灰白色で裏に入る	灰白色を呈し、緑褐色の赤色粒を混じり	施釉	施釉	太宰府青磁焼Ⅰ類	R-004
第2402-46	50094灰土・土師器	煎豆系青磁焼	煎豆	-	2.7±0	-	-	灰白色で平均的に施す	灰白色を呈し、緑褐色の赤色粒を混じり	施釉	施釉	太宰府青磁焼Ⅰ類	R-005
第2402-47	50094灰土・土師器	杯A	-	2.4±0	-	-	角閃・長石	淡褐色系	褐色系	回転ナデ	回転ナデ	R-001	
第2402-48	50094灰土・土師器	杯A	-	2.9±0	-	-	長石・石炭	にぶい・黄褐色	にぶい・黄褐色	回転ナデ	回転ナデ	R-002	
第2402-49	50094灰土・土師器	小皿B (7.0)	1.1	(6.4)	-	-	角閃・長石	淡褐色系	淡褐色系	回転ナデ	回転ナデ	R-003	
第2402-50	50098	土師器	杯A	-	3.0	-	角閃・長石	淡灰褐色	褐色系	回転ナデ	回転ナデ	R-001	
第2502-01	1区堀出時	土師器	小皿Bn (8.0)	1.8	(4.6)	-	角閃・長石	褐色系	褐色系	回転ナデ	ヨコナデ	R-010	
第2502-02	1区堀出時	土師器	煎豆C (13.0)	2.2	-	-	長石・赤色粒・白色粒	褐色系	褐色系	ヨコナデ・指サエ・ナデ	ヨコナデ・外側に黒線あり	R-019	
第2502-03	1区堀出時	土師器	小皿C 灯明	9.4	21±0	-	角閃・長石	淡黄色	淡黄色	ヨコナデ・指サエ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	R-020	
第2502-04	1区堀出時	土師器	煎豆C (12.0)	4.0±0	-	-	長石・赤色粒	灰褐色	灰褐色	ヨコナデ・指サエ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	R-024	
第2502-05	1区堀出時	消費資土器	美濃系 鉢	-	2.1±0	-	長石・石炭	灰色	灰色	ヨコナデ	ヨコナデ	R-011	

表8 陶磁器・土器類観察表⑤

調査番号	遺構番号	種別	形状	口径	底径	高さ	土	外周(内面)	内面(外周)	用途	外品	内品	備考	R番号
第25図-06	1区検出時	甕	甕	(11.0)	4.0±α	-	-	淡緑色 灰土入る	灰土色 灰土入る	灰土色を呈しやや中密	甕	甕	上田分館区画	R-009
第25図-07	1区検出時	甕	甕	-	2.7±α	6.2	-	灰白色を呈し、微細な黒色粒を呈し、灰土入る	灰白色を呈し、微細な黒色粒を呈し	甕	甕	甕		R-008
第25図-08	1区検出時	甕	甕	(13.0)	2.7	(7.3)	-	灰白色を呈し、微細な黒色粒を呈し、灰土入る	灰白色を呈し、微細な黒色粒を呈し	甕	甕	甕	小野分館床面付群	R-013
第25図-09	1区検出時	甕	甕	-	1.3±α	7.0	-	灰白色を呈し、微細な黒色粒を呈し、灰土入る	灰白色を呈し、微細な黒色粒を呈し	甕	甕	甕	豊村集計	R-006
第25図-10	1区検出時	甕	甕	-	4.2±α	-	-	灰白色を呈し、微細な黒色粒を呈し、灰土入る	灰白色を呈し、微細な黒色粒を呈し	甕	甕	甕		R-004
第25図-11	1区検出時	甕	甕	(15.2)	4.9±α	-	-	灰白色を呈し、微細な黒色粒を呈し、灰土入る	灰白色を呈し、微細な黒色粒を呈し	甕	甕	甕	船山分館C群	R-018
第25図-12	1区検出時	甕	甕	-	1.7±α	(4.6)	-	灰白色を呈し、微細な黒色粒を呈し、灰土入る	灰白色を呈し、微細な黒色粒を呈し	甕	甕	甕	徳込・兼付・高内内面に 回転軸付 内外面磨き	R-022
第25図-13	1区検出時	甕	甕	-	1.3±α	-	-	緑色で灰土入り	緑色で灰土入り	甕	甕	甕		R-005
第25図-14	1区検出時	甕	甕	(9.2)	2.6±α	-	-	灰白色を呈し、微細な黒色粒を呈し、灰土入る	灰白色を呈し、微細な黒色粒を呈し	甕	甕	甕		R-016
第25図-15	1区検出時	甕	甕	-	3.8±α	-	-	灰白色を呈し、微細な黒色粒を呈し、灰土入る	灰白色を呈し、微細な黒色粒を呈し	甕	甕	甕		R-023
第25図-16	1区検出時	甕	甕	横径(13.0)	1.8±α	-	-	灰白色を呈し、微細な黒色粒を呈し、灰土入る	灰白色を呈し、微細な黒色粒を呈し	甕	甕	甕	横径下に其の割縁あり	R-012
第25図-17	1区検出時	甕	甕	最大径(41.0)	6.5±α	-	-	灰白色を呈し、微細な黒色粒を呈し、灰土入る	灰白色を呈し、微細な黒色粒を呈し	甕	甕	甕	甕	R-026
第25図-18	1区検出時	甕	甕	-	2.1±α	-	-	灰白色を呈し、微細な黒色粒を呈し、灰土入る	灰白色を呈し、微細な黒色粒を呈し	甕	甕	甕		R-025
第25図-19	1区検出時	甕	甕	受部径(12.0)	3.3±α	かえり(18.4)	-	灰白色を呈し、微細な黒色粒を呈し、灰土入る	灰白色を呈し、微細な黒色粒を呈し	甕	甕	甕		R-015
第25図-20	1区検出時	甕	甕	-	4.2±α	-	-	灰白色を呈し、微細な黒色粒を呈し、灰土入る	灰白色を呈し、微細な黒色粒を呈し	甕	甕	甕		R-007
第25図-21	1区検出時	甕	甕	-	1.7±α	(4.2)	-	灰白色を呈し、微細な黒色粒を呈し、灰土入る	灰白色を呈し、微細な黒色粒を呈し	甕	甕	甕		R-021
第25図-22	1区検出時	甕	甕	-	6.7±α	-	-	灰白色を呈し、微細な黒色粒を呈し、灰土入る	灰白色を呈し、微細な黒色粒を呈し	甕	甕	甕	把手基部部 内面磨き	R-017
第25図-23	1区検出時	甕	甕	-	1.9±α	4.5	-	灰白色を呈し、微細な黒色粒を呈し、灰土入る	灰白色を呈し、微細な黒色粒を呈し	甕	甕	甕	徳込に敷土痕 1割	R-014
第26図-01	3区検出時	甕	甕	-	6.0±α	-	-	灰白色を呈し、微細な黒色粒を呈し、灰土入る	灰白色を呈し、微細な黒色粒を呈し	甕	甕	甕	外面に車輪痕目状工具痕あり 釜の大きい 部あり	R-001
第26図-04	4区検出時	甕	甕	-	3.0±α	4.0	-	灰白色を呈し、微細な黒色粒を呈し、灰土入る	灰白色を呈し、微細な黒色粒を呈し	甕	甕	甕	ナメ・ミガナ 高野屋ノ字	R-001
第26図-05	1区検出時	甕	甕	(10.0)	2.0	-	-	灰白色を呈し、微細な黒色粒を呈し、灰土入る	灰白色を呈し、微細な黒色粒を呈し	甕	甕	甕	内面磨き	R-003
第26図-06	1区検出時	甕	甕	(13.0)	3.8	(8.5)	-	灰白色を呈し、微細な黒色粒を呈し、灰土入る	灰白色を呈し、微細な黒色粒を呈し	甕	甕	甕	内面磨き	R-002
第26図-07	1区検出時	甕	甕	小口(耳口)	5.7	1.5	3.6	灰白色を呈し、微細な黒色粒を呈し、灰土入る	灰白色を呈し、微細な黒色粒を呈し	甕	甕	甕		R-001
第26図-08	1区検出時	甕	甕	-	3.0±α	5.4	-	灰白色を呈し、微細な黒色粒を呈し、灰土入る	灰白色を呈し、微細な黒色粒を呈し	甕	甕	甕	上田分館区画 内面磨き 高野屋ノ字に磨きとる	R-004
第26図-09	1区検出時	甕	甕	-	3.7±α	-	-	灰白色を呈し、微細な黒色粒を呈し、灰土入る	灰白色を呈し、微細な黒色粒を呈し	甕	甕	甕	上田分館D・E群	R-006
第26図-10	1区検出時	甕	甕	-	3.4±α	-	-	灰白色を呈し、微細な黒色粒を呈し、灰土入る	灰白色を呈し、微細な黒色粒を呈し	甕	甕	甕	内面磨き・ 内面磨き	R-005
第26図-11	1区検出時	甕	甕	(11.0)	1.3±α	-	-	灰白色を呈し、微細な黒色粒を呈し、灰土入る	灰白色を呈し、微細な黒色粒を呈し	甕	甕	甕	大寺町南口 1割	R-007

表9 陶磁器・土器類観察表④

調査番号	遺構番号	種類	形状	寸法(mm)			出土	色(外側)	色(内側)	文様	備考	調査
				口径	幅	高さ						
第26図-12	1区表土	白磁	甕	-	2.2+α	(6.7)	-	灰白色 表面は赤から青褐色の黒色粒色は黄から白	灰白色を呈し褐色の黒色粒色は黄から白	無施	太宰府白磁類産物 見込を確証に確認できず	R-008
第26図-15	2区表土	白磁	皿	(13.4)	2.6	(7.2)	-	乳白色で裏に入る 表面はやや黄く乳濁あり	乳白色を呈し黒色粒色は黄から白	無施	森田分館5-5類	R-001
第26図-16	2区表土	白磁	皿	(14.0)	2.5	(7.3)	-	光沢ある乳白色 表面は滑らか 乳濁入る	白色を呈し滑らかな黒色粒色は黄から白	無施	森田分館5-5類	R-002
第26図-17	2・3区表土	土師器	皿C	(12.4)	2.4+α	-	角間・長石	灰青色	灰青色	ヨコナデ・角ササエ・ナデ	角間に転用 内面に青銅付着	R-002
第26図-18	2・3区表土	土師器土器	皿	受部径(17.2)	2.5+α	かえり(13.4)	角間・長石	灰青色	黒紫色	ヘラケズリ・ナデ	中心よりずれた位置に孔あり 外面僅付着	R-001
第26図-19	2・3区表土	土師器	鉢	-	2.9+α	-	角間・黒色粒	黒褐色	灰白色	ケズリ	無施 見込に付着	R-003

④ 注量の() 内の数値は反転後元の数値

表10 瓦類観察表

調査番号	遺構番号	種類	形状	寸法(mm)			重量(g)	備考	調査
				長さ	幅	高さ			
第21図-05	SX024	瓦	丸瓦	6.6+α	7.4+α	2.5	-	土師器産物 内面は白磁 二次焼物	R-002
第21図-06	SX024	瓦	平瓦	7.3+α	9.5+α	2.3	-	瓦質産物 石灰灰を多く含む	R-003
第21図-07	SX050	瓦	平瓦	11.0+α	11.0+α	2.2	-	石灰灰を多く含む	R-012
第21図-08	SX050	瓦	平瓦	9.1+α	8.5+α	2.3	-	二次焼物による付着	R-013
第21図-09	SX051	瓦	軒平瓦	8.0+α	9.7+α	2.3	-	瓦質産物 「灰泥産物」	R-003
第21図-10	SX055	瓦	塼	12.5+α	7.8+α	3.4	-	土師器産物	R-003

表11 石製品観察表

調査番号	遺構番号	種類	形状	寸法(mm)			重量(g)	備考	調査
				長さ	幅	高さ			
第21図-19	SX046	火打石	石質	2.3	1.5	1.2	4.4g	-	R-003
第22図-15	SX051	磁石	結晶片岩	8.8+α	5.0+α	2.5	-	前面・先端部破面	R-011
第22図-29	SX055	石輪	磁石	33.5+α	26.5+α	6.0-10.0	-	背面・先端部破面 内面をノミ状工具により削り 磁石	R-001
第23図-15	SX038	石輪	滑石	口径(17.0)	幅(6.5+α)	厚(1.1)	-	水戸分館見出し 断面正三角形 口縁部立 断面欠損	R-001
第23図-20	SX046(龍方遺土)	不明	磁石	18.7+α	17.0+α	14.0+α	-	方形に成形 用途不明	R-001
第25図-24	1区出土	鑄型	磁石	2.5	4.8	1.2	18.5g	玉鑄型 外面に赤褐色・淡緑色のガラス質が付着	R-002
第25図-25	1区出土	スタンプ	滑石	6.5	5.0	1.8	62.4g	石輪の両加工品 草文7開孔 側部に磨光	R-001
第25図-26	1区出土	磁石	結晶片岩	16.0+α	3.2+α	2.5+α	-	一部破損	R-003
第26図-02	1区出土	滑石	赤磁石	7.0+α	7.3+α	2.6+α	-	磨の痕跡あり 磁石に両加工	R-002
第26図-03	1区出土	滑石	滑石	幅(5.6+α)	受部径(37.4)	-	-	外面は磨光時の工具面を残す	R-001

表12 鉄製品観察表

調査番号	遺構番号	種類	形状	寸法(mm)			重量(g)	備考	調査
				長さ	幅	高さ			
第22図-19	SX051	鉄滓	-	4.3	4.4	1.7	28.6	-	R-012
第25図-33	1区出土	鉄製品	不明	4.6	2.7	0.4	10.6	長方形 板状鉄板の断面を折り曲げる	R-007
第25図-34	1区出土	鉄製品	不明	9.2	5.4	1.2	62.6	表面が磨いた 鍛造製品	R-008

表13 銅・鉛・ガラス製品観察表

調査番号	遺構番号	種類	形状	寸法(mm)			重量(g)	備考	調査
				長さ	幅	高さ			
第25図-27	1区出土	銅製品	鉄柱玉	1.3	1.3	1.3	9.8	表面が白く磨いた 製作時の鑄型の合わせ目あり	R-001
第25図-28	1区出土	銅製品	鉄柱玉	1.3	1.3	1.3	11.0	磨あり 表面が白く磨いた 製作時の鑄型の合わせ目あり	R-002
第25図-29	1区出土	銅製品	銅線	7.6+α	0.2	0.2	1.3	ひずりに歪曲している 断面円形	R-004
第25図-30	1区出土	銅製品	銅形分銅	2.0	1.3	0.8	7.7	表面が磨いた 鍛造品	R-005
第25図-31	1区出土	銅製品	不明	1.7+α	1.0+α	0.8	4.1	方形の容積状	R-006
第25図-32	1区出土	ガラス製品	小玉	0.5	0.5	0.3	0.3	黒化の褐色化している 穴径0.2mm	R-003
第26図-14	1区表土	銅製品	磨いた金貨	2.5	2.2+α	0.5	1.1	金メッキが残る半円形の銅板に磨き取り付いている	R-001

表14 銅銭観察表

調査番号	遺構番号	種類	形状	重量(g)	直径(mm)	厚さ(mm)	備考	調査
第24図-35	SX002(青銅)	銅製品	銅銭	元元通貨	2.3	2.1	初年1006年	R-001
第26図-13	1区表土	銅製品	銅銭	元元通貨	2.3	5.0	銅銭が3枚重なる 裏・表は「元元通貨」初年1366年	R-002

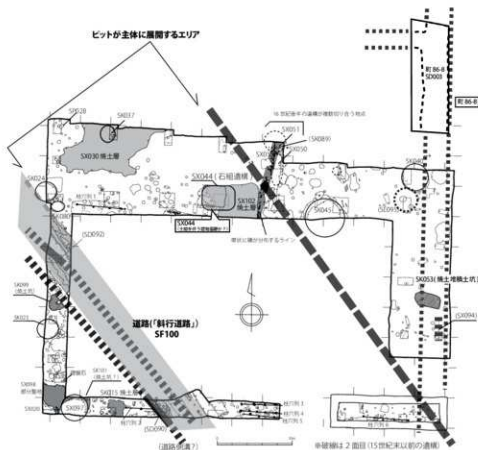
第IV章 総括

今回の調査は、店舗建設の際に遺跡に影響を及ぼす建物基礎部分のみを対象に遺構の発掘を行った。部分的な調査となったものの856.7㎡分の遺構検出を行い、道路跡や大型土坑・石組遺構・ピット群など遺構全体の配置が一望できた点は大きな成果であった。なお、中世大友府内町跡第104次調査（以下、調査回数表記は「町○次」とする）地点の南側では、庄の原佐野線建設工事に伴って大分県教育庁埋蔵文化財センターによる発掘調査が行われその成果が報告されている（大分県教育庁埋蔵文化財センター2008a・b、同2010）他、調査地北側では大分市教育委員会によって推定御蔵場跡の確認調査が行われ、遺構の様相が明らかとなっている（大分市教育委員会2011）。

中世大友府内町跡の調査回数が100を超えた現状にあって、今回の調査地点の性格を把握するためには、これらの隣接地点の調査成果との比較が肝要であり、これを怠っては中世大友府内町跡の今後の調査研究及び地域の歴史へ還元する事は難しい。したがって、以下では今回の調査で確認した主要遺構の分布状況の整理を行い、周辺の調査成果との対比する事で、調査地の「場」の意義について検討する。

第1節 町104次調査における主要遺構の分布

第27図は報告した主要遺構の分布を示したものである。道路跡としたSF100（以下、調査区を斜行する道路全体を便宜的に「斜行道路」として記述する）の軸に直交または平行する遺構はなく、柱穴列や石組遺構(SX044)は全て南北軸に揃っている。部分的な掘削にとどまったため、明確な井戸跡の特定は困難であるが、これらの遺構群は町屋を構成したものと考えられる。柱穴列を含むピット群と土坑が分布するエリアには規則性があり、面的に調査を行った斜行道路東側では道路から東へ24m程がピットを主体とした空間となり、これ以东は土坑などの大型遺構が主体となる事を読み取る事ができる。



第27図 町104次調査主要遺構分布図(1/500)

2面目は部分的な調査のため、具体的な「場」の性格には言及できないが、井戸跡や土坑などが確認されている。調査区北東部方向へ5m北にある町86-8次調査において15世紀代と考えられるSD003とした幅3m、深さ1.3mの断面「逆台形」型の大溝が確認されている（大分県教育委員会2011）。SD003の南側延長部にあたる1Trでは大型遺構の内部と考えられるSX094を検出した。町86-8SD003に比べ浅いものであったが南側の町69ASD750や町41SD203・町36SD109と町86-8SD003と同規模の溝が存在しており（第29図）（大分県教育庁埋蔵文化財センター2010）、溝の方向や規模からみてこれらが14世紀から15世紀代の一連の溝跡である可能性が高い。

SF100の下方からはSD090とSD092の大型遺構が確認された。規模がわかるSD092では深さ1.2m、幅2m程度に復元できる遺構である。町77次調査では16世紀後半の道路状遺構の下方より10条もの「区画溝」として報告された遺構が存在する事から、SD090とSD092についてもSF100形成以前に存在した区画水路もしくは道路側溝などの機能をもつ溝跡の可能性はある。

第2節 周辺調査全体からみた遺構配置

ノコギリ町～柳町付近に相当する町34・36・41・43・55・69・77次調査は計約9200㎡もの大規模な面積を対象に調査が実施され、第2南北街路の一部・斜行道路跡・井戸跡・土坑・ビット・溝跡・方形竅穴遺構など「町屋」を構成する複数の遺構が確認されている（大分県教育庁埋蔵文化財センター2010）。第29図は、刊行された報告書から読み取った16世紀後葉から末頃の遺構の配置状況を模式化したものである。

遺構のまとまりとして、斜行道路～第2南北街路の区間では、概ね東側より①第2南北街路→②ビット群→③土坑・井戸群→④ビット群→⑤斜行道路→⑥ビット群→⑦土坑・井戸群→⑧方形区画の順に分布する。①～③の間は約36mの奥行をもつ町屋と考えられ⁽²¹⁾、「府内古図」の記載から片側町となる「柳町」を構成するものと考えられる。斜行道路を挟む④～⑤・⑤～⑦についても「府内古図」の記載から両側町となる「ノコギリ町」を構成する遺構である事が追認できる。なお、両町屋とも竅穴建物や石組遺構が一定量存在し、これらは町屋の建物が想定される道路側前面ではなくビット群の背面を中心に分布している。

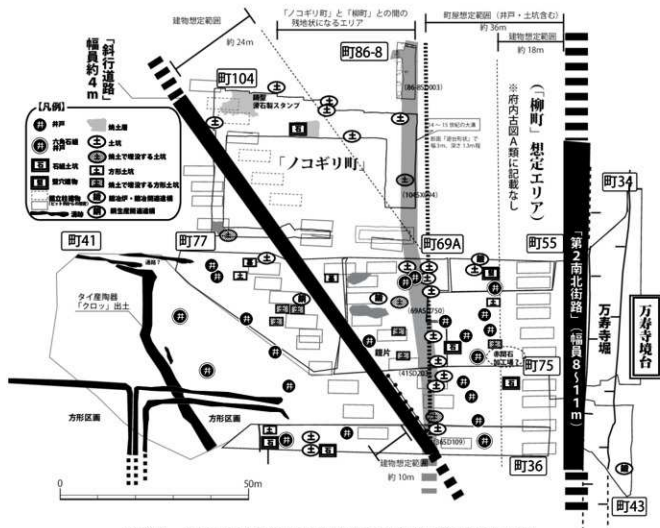
「ノコギリ町」の性格については、横澤慈氏によって鉄製品や銅製品の生産、加工に従事した職人が複数存在していた事（町77次調査）、いわゆる赤間石の加工石材と硯（製品）の存在から赤間石を素材として持込み、加工した場（町75次調査）であった事が指摘されている（横澤2010）。斜行道路前面では、鍛冶炉跡（町69ASX235・SX236）や銅生産に関係する炉跡（町77SK104）、溶解した銅を加工した作業場と推測された燐敷遺構（町77SX475）や粘土採掘穴として報告された方形土坑（町69ASK242・SK254・SK325・SK706）があり、16世紀後葉から末頃の遺構中には埴塙や皿Cを埴塙として転用したもの、フイゴ羽口等が多く出土する他、目貫金具の鋳型（第28図2）が出土する事から銅製品の製作も行っていた事が窺える。これらの周辺との関係のなかで町104次より鋳型（第28図1）⁽²²⁾や染色業に関連するともいわれる滑石製スタンプ（第28図3）等が出土したと考えられる。「柳町」部分の調査成果を俯瞰してみると、町屋の構造自体は、ビット群から具体的な建物を復元する事は困難ではあるが、柱穴列の方向からは大友館前面の「桜町」や「御内町」（町12・18次など）（大分県教育庁埋蔵文化財センター2006）、万寿寺前面の「寺小路町」（町97次）（大分県教育委員会2013）等と同様、道路に直交して並行の狭い建物跡が平行して並び、その背面に井戸跡・廃棄土坑が密集するという景観に類似するものと考えられる。

第3節 まとめと課題

今回の調査成果を元に、ノコギリ町・柳町周辺の16世紀後葉から末頃の町屋構造について若干の検討を行い、既存の調査所見の検証及び対比を行った。



第28図 町104次及び周辺調査区出土の手工業生産関連遺物(1/4)



第 29 図 ノコギリ町周辺構造配置模式図 (案) < 16 世紀後葉から末頃 > (1/1,000)

結果として、調査地点がノコギリ町の一画であった事を再確認する事ができた。また、16 世紀前半を前後する時期に形成された整地層の上下に 2 つの遺構面が存在する事が追認・検証できたが、この整地層の形成時期は中世大友府内町跡南部における土地利用の変遷を考える上で重要な画期と考えられ、その歴史的意義の検討は今後の課題である。(長 直信)

【本文注】

注 1 : 「柳町」北側の調査となる町 89-6・1 地点でもビット群と井戸・土坑群の分布が概ね第 2 南北街路より 40 m 程の範囲で分布する事が判明している (大分県教育委員会 2011)。

注 2 : 第 28 図 1 は、鋳型から復元される製品を想像したもの。直径 1.0 ~ 0.88 cm 程の球形のものが復元できる。

【第 III・IV 章 引用・参考文献】

伊藤毅 2007 『日本史リブレット 35 町屋と町並み』山川出版社

大分県教育庁埋蔵文化財センター 2006 『豊後府内 4』(第 9・12・18・22・28・48 次) 大分県教育庁埋蔵文化財センター調査報告書 第 9 集

大分県教育庁埋蔵文化財センター 2008a 『豊後府内 8』(第 34・43 次) 大分県教育庁埋蔵文化財センター調査報告書 第 23 集

大分県教育庁埋蔵文化財センター 2008b 『豊後府内 9』(第 36・55 次) 大分県教育庁埋蔵文化財センター調査報告書 第 24 集

大分県教育庁埋蔵文化財センター 2010 『豊後府内 16』(第 1 ~ 4 分冊) 大分県教育庁埋蔵文化財センター調査報告書 第 48 集

大分県教育委員会 2011 『大分市市内遺跡確認調査概報 - 2009・2010 年度 -』

大分県教育委員会 2013 『宗麟の戦国都市解明に大きく前進! - 万寿寺門前町の全貌がはじめて明らかに -』(中世大友府内町跡第 97 次調査現地説明会資料)

横澤慈 2010 『第 3 節 ノコギリ町の性格について』(『豊後府内 16』(第 4 分冊) 大分県教育庁埋蔵文化財センター調査報告書 第 48 集

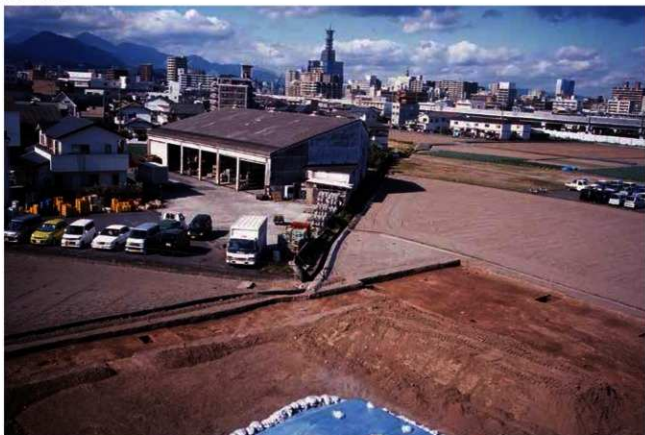


調査区遠景 (南東より)



調査区全景 (上が北)

写真図版 2



SF100(南東より)



SX044・SX055 周辺 (上が北)



1区東側検出状況(南より)



1区北側検出状況(西より)



3区西側検出状況(西より)



3区東側検出状況(東より)



4区検出状況(東より)



SKD09 土層断面(北より)



SKD37 完掘状況(東より)



SKD40 完掘状況(西より)

写真図版 4



SK080 検出状況 (南より)



SF100 検出状況 (南東より)



SX044 検出状況 (南西より)



SX044 完掘状況 (南西より)



SX044 検出状況 (南より)



SX044 完掘状況 (西より)



SX044 土層断面 (東より)



SX050・SX051 完掘状況 (南より)



SX051 馬下顎骨出土状況 (南西より)



SX055 検出状況 (南より)



SX098 検出状況 (南より)



SP028 土層断面 (西より)



SP054 出土状況 (北より)



SE097・SX098・SK101 検出状況 (北東より)



SK099 検出状況 (東より)



SE095 土層断面 (東より)

写真図版 6



SK071 完掘状況 (東より)



SD090 完掘状況 (東より)



SD090 土層断面 (北西より)



SD092 完掘状況 (東より)



SF100・SD092 土層断面 (南東より)



SX094 土層断面 (北より)



1区調査風景 (東より)



SX044 周辺調査風景 (南より)



第 21 図 -17



第 21 図 -17



第 21 図 -18



第 21 図 -19



第 21 図 -20



第 21 図 -53



第 21 図 -53



第 23 図 -15



第 23 図 -23



第 25 図 -7



第 25 図 -7



第 25 図 -10



第 25 図 -13



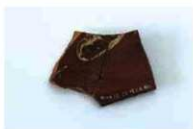
第 25 図 -14



第 25 図 -14



第 25 図 -16



第 25 図 -16



第 25 図 -18

写真図版 8



第 25 図-18



第 25 図-22



第 25 図-24



第 25 図-24



第 25 図-24



第 25 図-24



第 25 図-24



第 25 図-25



第 25 図-25



第 25 図-27



第 25 図-28



第 25 図-30



第 25 図-32



第 26 図-2



第 26 図-4



第 26 図-14



第 26 図-14



第 26 図-17

報 告 書 抄 録

ふりがな	おおともふない ちゅうせいおおともふないまちあと							
書名	大友府内19 中世大友府内町跡第104次調査							
副書名	店舗建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ名	大分市埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ番号	第132集							
編著者名	長 直信 株式会社九州文化財総合研究所(業務責任者 服部貞和)							
編集機関	大分市教育委員会							
所在地	〒870-8504 大分市荷揚町2番31号 TEL (097)534-6111 (代表) FAX (097)536-0435							
発行年月日	西暦2014年3月14日							
ふりがな	ふりがな	コード		北 緯	東 経	発掘期間	発掘面積(m ²)	発掘原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
ちゅうせいおおともふないまちあと 中世大友府内町跡第104次	おおいたしろくぼうきたまち 大分市六坊北町	44201	322051	33° 13' 12"	131° 37' 21"	20131028～ 20131214	856.7㎡ (内、61.2㎡分を削除)	店舗建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
中世大友府内町跡第104次	都市	中世	柱穴列・道路状遺構・石組遺構・土坑・ピット・整地層	土師器 瓦質土器 土師質土器 中国白磁 中国青磁 中国青花 中国陶器 瀬戸・美濃系陶器 備前陶器 軒平瓦 銅製品 鉄製品 石製品 銚子型 滑石製スタンプ 鉄砲玉	道路跡・石組遺構の検出 銚子型・滑石製スタンプ等の生産関連遺物の出土

要 約	店舗建設の際に遺構面に影響を及ぼす建物基礎部分のみを対象に遺構の完掘を行った。部分的な調査となったものの856.7㎡分の遺構検出を行い、道路跡や大型土坑、石組遺構、ピット群等遺構全体の配置が一望できた点が大きな成果である。今回の調査地点は、比較的多くの調査履歴のある「ノコギリ町」付近に相当し、既存の調査所見から手工業生産に関連した遺構・遺物の存在が指摘されていたが、今回の調査でもこれらの傍証となる銚子型等の出土がみられた。また、遺構の平面分布や遺構面数についての検証及び対比を行う事ができた。結論として、16世紀前半を前後する時期に形成された整地層の上下に2つの遺構面が確認された。この整地層の形成時期は中世大友府内町跡南部における土地利用の変遷を考える上で重要な画期と考えられ、その歴史的意義の検討が課題である。
-----	--

大分市埋蔵文化財発掘調査報告書 第132集

大友府内19

中世大友府内町跡第104次調査

店舗建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2014年3月14日

発行 大分市教育委員会
大分市荷揚町2-31